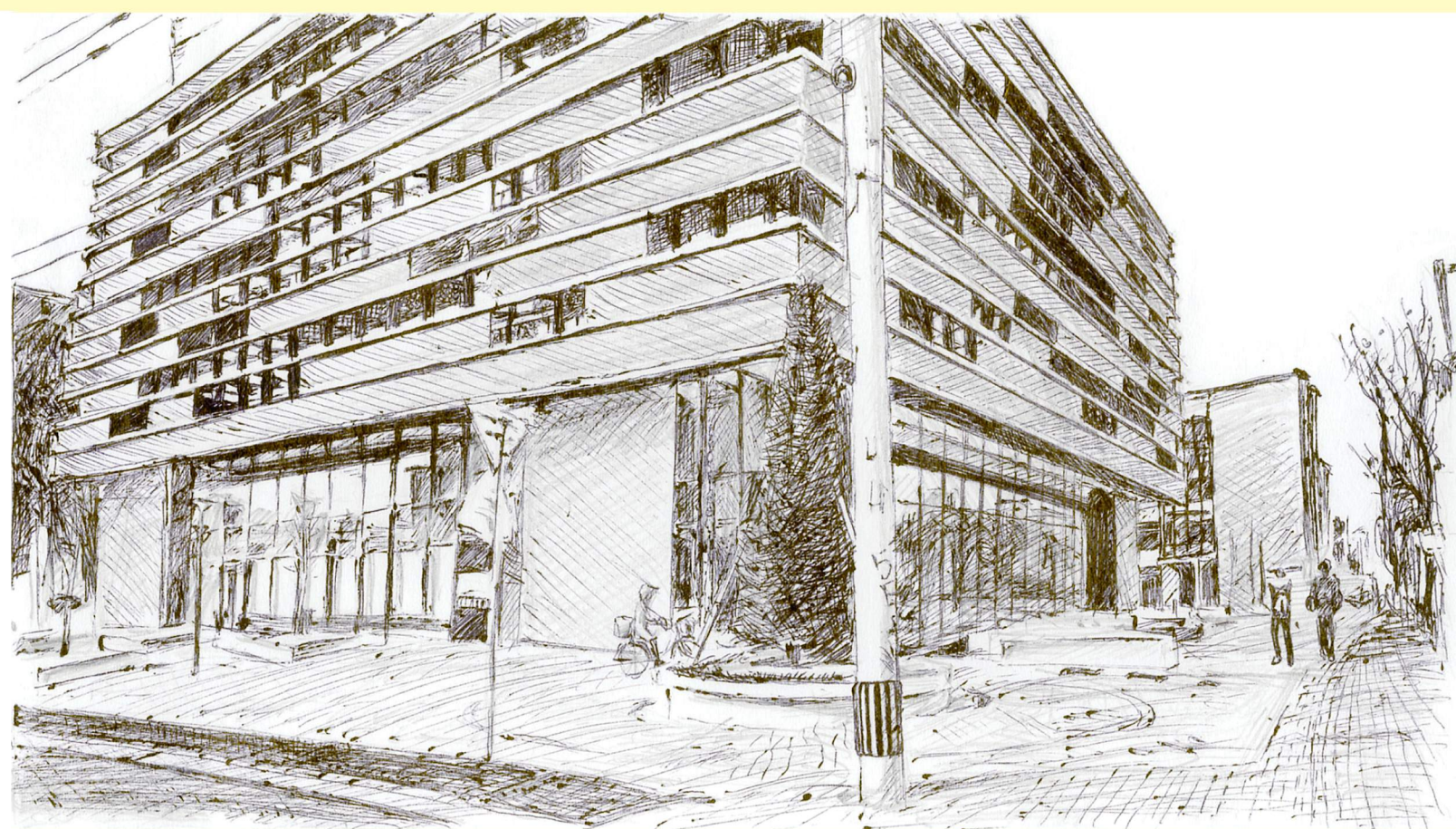


2018 年度

経済学部演習紹介



西南学院大学経済学部

目 次

2018（平成30）年度演習Ⅰ選考の日程	2
経済学科の学生を対象とする演習	
崔 ゼミ	4
江里口ゼミ	6
花田ゼミ	10
平井ゼミ	14
伊佐ゼミ	18
加藤 浩ゼミ	22
小出ゼミ	26
近藤ゼミ（前期集中）	32
仲澤ゼミ	36
相模ゼミ	38
市東ゼミ	40
瀧井ゼミ	44
山村ゼミ	46
国際経済学科の学生を対象とする演習	
東 ゼミ	50
本間ゼミ	52
加藤 真ゼミ	54
河村ゼミ	58
三宅ゼミ	62
村岡ゼミ	64
尾上ゼミ	66
立石ゼミ	68
上垣ゼミ	70
尹 ゼミ（後期集中）	72
演習Ⅰ申込書	75

※経済学科の学生は「経済学科の学生を対象とする演習」にしか、また国際経済学科の学生は「国際経済学科の学生を対象とする演習」にしか応募できないので、注意してください。

2018（平成30）年度演習Ⅰ選考の日程

第1次募集

- 11月6日（月）～11月10日（金） 第1次募集申込期間
※申込書・志望理由書（第1志望用）を教務課レポートBOXに提出
- 11月13日（月） 申込者数中間発表（午前10時：経済学部掲示板）
- 11月13日（月）～11月15日（水） 第1次募集申込変更期間
※申込書・志望理由書（第1志望・変更用）を教務課レポートBOXに提出
- 11月16日（木）～11月28日（火） 選考期間
- 11月29日（水） 第1次募集選考結果発表（午前10時：学生ホール）

第2次募集

- 11月29日（水）～12月1日（金） 第2次募集申込期間
- 12月4日（月）～12月8日（金） 選考期間
- 12月11日（月） 第2次募集選考結果発表（午前10時：学生ホール）

第3次募集

- 12月11日（月）～12月15日（金） 第3次募集申込期間
- 12月18日（月） 最終結果発表（午前10時：学生ホール）

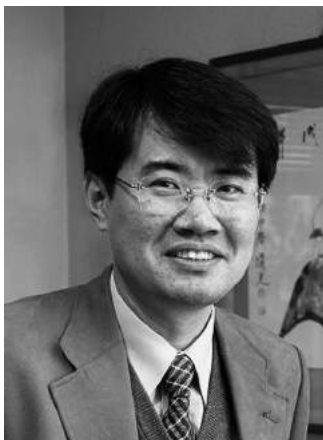
「第3次募集」は募集期間内に、定員に空きのあるゼミの教員に、メール等で各自連絡を取ること。
期間外の申込は受け付けられないので、やむを得ない事情がある場合は、教務課に相談すること。

経済学科の学生を対象とする演習

【注意】

「経済学科生の学生を対象とする演習」には、経済学科の学生だけが応募できます。
国際経済学科の学生は応募できません。

誤って他学科の学生を対象とする演習に応募した場合には、当該の選考からはずれ、自動的に次の選考に回りますので注意してください。



—— プロフィール ——

崔 宗煥（チェ ジョンホアン）

専門分野：経済政策論、計量経済学、日韓経済の実証分析。

演習テーマ：経済学の理想と経済政策論上の課題

テーマの解説：

最近マスコミでは「経済格差」についての議論が目立つようになりました。「格差」は、経済政策論的にとらえて決して悪いだけの意味を持つ概念ではありません。しかし、経済発展論的にとらえれば、発展途上段階における国民経済はともかく、先進諸国において階層化が進み、これによって生じる経済的な所得格差問題は福祉国家の理想とは掛け離れた新たな社会問題を生み出しています。さらに、福祉国家の実現は財政的危機を招き現状における福祉レベルの維持は将来的に極めて不透明なものとなっております。つまり、理論的には理想と目指してきた福祉国家への道が、現実経済において新たな社会的・経済的問題を作り出しているというディレンマです。この「理論と現実のギャップ」をどのように排除していくかが経済政策論の課題であります。我がゼミでは、皆さんがこれまでに身につけてきた経済学の基礎知識をベースにして、このような経済政策論の学習を目指しています。具体的には、現実経済における様々な経済活動について、とりわけ経済政策論的なアプローチに重点を置き、政府活動と様々な経済政策について、日本経済のみならず世界経済情勢をも念頭に置きながら、探究することが課題です。経済理論において示される望ましい方向と現実におけるギャップや課題に焦点を当てながら、理論・政策・歴史的な分析を試みていきます。経済学における理論と実際のバランスを常に念頭に置きながら、今の経済問題や政策課題についての議論を通じて、それらに対する判断力や適切な対応能力を養っていくことを最終目標としております。

演習の進め方：

ゼミでは、全体をバランスのとれた小グループ別にわけて、各担当グループ別に、毎週自主的なテーマを選んでもらい、新聞やインターネット情報などの最新情勢について発表してもらいます。リアルタイムな経済問題に目を向けていくことで、自分を取り巻く現実経済への関心を高め、それぞれの問題解決に向けたアプローチや方法論について探求を通じて、現実経済で発生する多くの課題分析のために必要な幅広い経済学的な基礎感覚を養っていきます。

この目標を達成するために、ゼミでは、経済政策論のテキストを取り上げ体系的な勉学を通じて、実際の経済問題について、理論的な背景、他国における事例、過去における歴史的な教訓についての知識を深めていきます。指定テキストは、これらの学習目的に相応しい内容とレベルとなっており、演習ⅠとⅡにかけて、じっくりと議論を進めていくことで、ゼミ生一人一人が今起きている経済問題についての的確に判断・分析・対応できるような能力を自ら強化できるようにしていくことが最終目標と認識しております。

テキスト：

田代・荻原・金澤『現代の経済政策（第4版）』有斐閣ブックス
(演習Ⅰと演習Ⅱにおいて共通使用)

評価方法：

出欠状況と普段のゼミ活動における積極的な取り組み姿勢を総合的に判断します。従って、ゼミ活動と関連する無断欠席や無責任な言動などは、ゼミ生一人一人のやる気や全体の秩序を乱すことになりますので、決して評価できません。

学生への要望：

ゼミ活動に対する最低限の配慮と積極的な参加を望みます。そして何よりも経済学の面白さや勉学の楽しさをゼミ時間を通じて実感してくれば最高です。そのために、週1回のゼミ時間においては積極的に準備し発言をするなどの姿勢を期待します。ゼミ時間以外では、いつでも研究室を開放しておりますし、ゼミ生の希望による課外授業やゼミ旅行に関しては、各年次のゼミ生全体の意向を尊重いたします。

受講者の選抜方法：

基本的には経済政策論の学習に最低限必要な基礎科目の履修状況を前提条件として評価いたしますが、経済政策論の性質からして理論的な学習能力だけに重点をおくものではありません。

※ 経済学科の学生を対象とした演習です。





—— プロフィール ——

担 当 科 目：経済思想史，経済英語など

演習のテーマ：どうして経済思想は日常の役にたつのか

出 身 地：佐賀県小城生まれ，熊本県八代育ち

好きなもの：ジャズ，ウッド・ベース初心者，カナディアンカヌー，スポーツサイクリング，サッカー，テニス，トレッキング，キャンプ道具集め，エレキギター（メタル），海へドライブ，カメラ（ライカ），博多人情，歴史小説，映画鑑賞，英会話，温泉・史跡めぐり，子供と電車に乗ること

演習テーマ：

大学教員としてのキャリアは20年，西南に赴任して7年目です。ゼミは参加者の雰囲気に合わせていますが，西南の学生は，とにかくよく発言するので，ディベート・ディスカッション中心のゼミに進化中です。各自に研究テーマをもってもらいますが，議論が深まってくると，しっかりした準備が必要になってくるからです。ゼミ生は，他者の研究テーマに首をつっこみながら，ともに励まし合い，多くのテーマについて幅広く学んでいるようです。

行き詰まった時，「考えてからしゃべる」ではなく，「しゃべりながら考える」ことがしばしば有益です。「良い意見を言おう」とすると頭が真っ白ですが，「稚拙でも良いので何か言おう」とすると，良いアイデアが浮かぶことがあります。哲学者のイマヌエル・カントいわく，人間にはもともと普遍的真理への能力が備わっています。これを発揮できないのは，高校までの教育制度が「正解」だけを暗記する退屈なシステムだからではないでしょうか。社会に出れば，そこに「正解」はなく，ただ，未来への「進化」があるのみです。ゼミ生には，最初は内容的に稚拙でもまったくかまわないので，とにかく自分から「しゃべる」ことを求めます。ゼミでは，人と議論するのが大好きな人を歓迎します。

さて，僕の専門である経済思想史とは，偉大な経済学者や政策当局者が，「要は，なにを考えているのか？」をさぐる学問です。むずかしい学説や制度も，つきつめれば人間の「価値観や想い」を体現しています。そして，あらゆる業界ルールや身近な出来事も，「人間の思想」によって成り立っています。ただこれらは通常「無意識」の領域に追いやられ，日常で意識することは少ないのですが，その核心が理解できれば世界がシンプルに見えてきます。それは究極の他者理解であり，コミュニケーション作業です。同時に，コミュニケーション主体である自己への理解も深まっていきます。

そもそも福岡県に住む大学2年生である「私」は，「無意識」にどのような経済行動をしているのでしょうか，，，？ 案外，見えにくいことはないでしょうか。実は，「私」は友人の模倣をすることが多い。ところが，その友人も「私」の模倣をしていたようだ！と気づくこともあるでしょう。では，どうして模倣してしまったのか，，，，不安だったから，とりあえず，，，どうして不安だったのか？，，，，テレビで不安を煽るようなことを言っていたから，，，メディアはなぜそういう情報を流すのか？，，と無意識の行動にもある程度共通する原因があるようです。

ゼミ生には、世間に流されるだけでなく、自分のキャリア形成にとって真に必要なものを洞察し、選び取る知的勇気をもってもらいたいです。

演習の進め方：

演習Ⅰは、テキストの準備ができるまで英語の輪読を行います。準備ができたら日本語テキスト分担発表をします。次に研究テーマを決めてもらうために、三段階の準備を経て、4,000字程度の期末レポートを完成させます。あらゆる過程で、ディベート、ディスカッション、質疑応答の練習をします。一日に一度も発言しない人は、厳しい注意、減点を受けることになります。

演習Ⅱは、前期は全員出席が難しいこともあるので何か共通のテキストを輪読・ディスカッションし、後期に入ってから、本格的に卒論発表・ディスカッションへと向かいます。後期になると就活面接をくぐり抜けたゼミ生たちは皆いっばしの論客になっており、あれこれ本当によく発言します。教員はもっぱら発言を制する役割に回ります。卒論作成は強制ではないですが、基本的には提出をすすめます。

2年間のおおまかな流れ：

- 3年前期：共通課題（日本語テキスト報告、英語文献、ディベート、ディスカッション）
- 3年後期：研究指導（卒論テーマ探し、ディベート、ディスカッション）
- 4年前期：共通課題（日本語テキスト、ディベート・ディスカッション、就職活動）
- 4年後期：研究指導（卒論作成、ディベート、ディスカッション）

評価方法：

40点：分担発表、準備の程度

60点：ゼミ運営への協力的行為の有無。

形だけの出席ではなく、自発的な発言のみを評価します。

発表時のドタキャンは即アウトもしくは出席停止です。

他者への配慮を欠いた利己的行動には厳しく対処します。

対象：

経済学科の学生のみを対象とします。

ゼミ生の声：

- ・「普段は学生主体でさせてもらっていますが、詰まった時や補足説明などわかりやすく解説して下さい。頭の中がモヤモヤしていた部分が、一気に解消できたことが度々ありました。」
- ・「世界は広い。いや、福岡県ですらかなり広い。そこには君の将来を左右するモノが溢れている。もう実感しているはずだ。江里口ゼミでは、自由の風が吹いている。嘘だと思ふなら遊びに来て

よ。きっと虜になるから。」

- ・「緩やかな雰囲気が漂うゼミです。ディスカッションの場が多く、一つの発言が様々な意見を生み、深まっていく事が楽しいです。たまに補足説明を先生がしてくれるのですが、それが解りやすいし面白くて、個人的に大好きです(笑)。聞く力、話す力、場を作る力を身につけたい人にはオススメのゼミです!!」
- ・「江里口ゼミは緩すぎることもなく固すぎることもなく、とてもアットホームな雰囲気の中で活動しています。内容も就活の場や社会に出た時に最も必要となる相手との対話力を主に、様々なスキルを身に付けることが出来ます。」
- ・「江里口先生のゼミでは、生徒が自主的に、かつ自由な討論は場を作っていきます。和んだ雰囲気なため、堅苦しいテーマでも先生も生徒もみんな笑いながら毎週楽しくディスカッションなどを行っています。」

教員自身の声：

- ・「このゼミは良い意味で個性的で芯の強い人が多く集まってくれているように感じます。なので、いつも楽しく授業させてもらっています。そしていつもゼミを熱心に盛り上げてくれている人たちは、みなさん就職先も抜群に良いようです。ゼミ生は僕個人としても自信をもって送り出せる好人物ばかりで、会社の人事部もさすがプロだな、と感じています。」

各種ゼミ・イベントについて：

ゼミを盛り上げる企画があれば、幹事を中心に、積極的に出してください。ペースは学生の自由です。教員はサポート役にまわります。

選抜方法：

事前に相談がある人は、eriguchi@seinan-gu.ac.jp まで質問してください。

卒論テーマの例：

「幼児の経済学」、「NPO と社会変化」、「営業の心理学」、「ワンピースに見るリーダーシップ論」、「マルサスと現代」、「インバウンド消費と日本の観光政策」、「音楽業界と CD の売り上げ」、「ソーシャルネットワークとアイドルの宣伝戦略」、「銀行はどう見られてきたか」、「マネジメントと部下力」、「広告とマーケティング」、「日本の農業の将来」、「外交戦略と初歩的ゲーム理論」、「人間関係とひとの心理」、「スウェーデンについて」、「女性労働と子育て」

相談を歓迎します：

研究テーマについて疑問がある人はメールで質問して下さい。最初は明確なテーマが浮かばないでしょうから、これを機に知恵をひねりましょう。



2016年から2017年にかけて1年間、西南学院大学から派遣されて、イギリス・オクスフォード大学に客員研究員として滞在しました。意外や意外、オクスフォードでは、ちょっとユル過ぎるのではないかと心配になるほど大らかなヒューマニズムと、凜としたジェントルマンのマナーとが両立して高い成果を生み出しており、日本の経済組織の規範的思想の再考にあたっても有益な事例になる気がしました。英語やイギリスに興味のある人の参加も歓迎します。

歴代ゼミ生の就職先：

（新しい順に）福岡銀行、三井住友信託銀行、肥後銀行、新生銀行、大和ハウス、山口銀行、タカラスダンダード、福岡市役所、日本ハム、都城ケーブルテレビアナウンサー、リクシル、大和証券、ミュージシャン、マイナビ、三菱東京UFJ銀行（2015年度西南1名）、野村證券、日興證券、福岡県庁、各市役所、芸能エンターテインメント事務所、アパレル系、郵便局、農協、第一生命



—— プロフィール ——

氏 名 花田洋一郎
 出身地 福岡県宗像市
 生年月日 1968年4月4日
 担当科目 西洋経済史
 趣 味 天体観測、クラシック音楽（とりわけヴァイオリン協奏曲）、油絵、史跡探訪、映画鑑賞、模型製作（1/35 MM シリーズ専門）
 メールアドレス：hanada@seinan-gu.ac.jp

◇西洋経済史とは◇

私の担当科目は「西洋経済史」です。西洋経済史は、ヨーロッパの歴史を主にその社会経済的側面に注目して研究する学問で、歴史学と経済学を両親として生まれた学問です。したがって、経済学の理論や考え方を基礎にしながら、文献史料の批判的分析と先行研究の積極的摂取を通じて、歴史を読み解いてゆくことを主眼としています。

西洋経済史の主要なテーマとしては、古代では、ローマ帝国衰退論、中世では古典荘園制、遠隔地貿易と在地交易、中世都市、ギルドがあり、近世以降は大航海時代と商業革命、宗教改革、プロト工業化、産業革命、資本主義世界体制の成立、大不況と帝国主義などさまざまです。

私の専門を具体的に説明すると、13世紀から16世紀までのフランス中世都市の行・財政制度の研究をしています。特にシャンパーニュ地方の都市の租税制度と財政を管理する行政組織の歴史的展開のメカニズムに関心があり、それとの関連でシャンパーニュ大市（11世紀から13世紀にかけて繁栄した国際市場）、都市の防備施設（百年戦争期の都市の囲壁、市門や塔）、都市の日常生活（治安維持と衛生）についても勉強をしています。15世紀フランスの救世主ジャンヌ・ダルクにも強い関心を持っています。

ここ10年来歴史を勉強しても役に立たないとか、未来を描けない歴史学には存在価値はないなど痛烈な批判がなされています。しかし、未来が未知である（予想できない）のと同様に、過去もまた未知の領域なのです。たしかに様々な文献・史料を用いて、時間と労力と費用をかけて、さらに長期的視点に立って過去を調べるという作業は、とても大変な作業です。しかしこうした作業から得る経験は、今後の人生で困難に直面したときにどのように判断して対処するか、決断を迫られたときに役に立つでしょう。つまりある問題が生じた時、その問題の背景を多様な視点で見つめなおし、問題に絡む政治・社会経済・文化・人間関係に目配りし、長期的な時間軸で捉えるという一連の思考は、問題に対する複数の対応策を生み出してくれるはずです。また当然のことですが、国際化が急速に進む現在、外国の歴史を勉強することは外国をより深く理解することに直結します。外国人とコミュニケーションをはかる上でも歴史的知識が大きな武器となることは、経験からいって確かです。歴史の勉強は、語学と共に異文化交流の第一歩なのです。

◇ゼミの演習テーマ◇

この演習は経済学科の学生に対して開講されるものです。2018年度では、小澤卓也・田中聡・水野博子編『教養のための現代史入門』（ミネルヴァ書房、2015年）をテキストとし、欧米、アジア、中東、日本における現代史をしっかりと学びます。現代史は、現代経済を理解するために必須の知識であり、将来を見通すための地図として役立ちます。テキストの範囲は、1945年から現時点までです。

後期は英語・フランス語テキストの講読を行います。英語テキストとしては、アメリカの大学1年生向けに書かれた標準的な世界史テキストである以下の文献を使用します。W.J.Duiker and J.J.Spielvogel, *The Essential World History*, Wadsworth Cengage Learning, Boston, 2007 ; J.J.Spielvogel, *Estern Civilization*, Cengage Learning, Boston, 2012です。フランス語に関しては、希望者がいれば実施します。

【ゼミの進め方】

[前期]ゼミ生を2～3人一組のチームに編成し、チームごとにテキストの章を分担・報告する。また世界の最新の出来事についてもフォローしながら、各国・各地域の歴史と現在について理解を深めます。

[後期]基本的に外国語テキストの講読を通じて、本格的な外国語論文の読み方を習得しながら、同時に最新の研究成果も学ぶことにしています。夏休み中には2冊以上の課題図書を読んで、8000字程度のレポート提出を義務にしています。レポートは文章・論理展開をチェックして返却します。

◇演習の評価方法◇

試験はしません。各自の演習での参加態度、報告、議論を通じて総合的に評価します。夏休みのレポートも評価対象です。

◇演習の選抜基準◇

まず大前提として、世界史あるいは歴史が好きであること。好奇心旺盛で読書を通じて調べ物することを厭わない人を望みます。また外国語が好きな人を強く望みます。礼儀をわきまえ、大人として対応できる人。遅刻・無断欠席に罪悪感を持たない人、責任感のない人はお断りします。申込書には、自己紹介と共にどのような歴史テーマに関心があるかを書いてください。選考は書類審査と面接で行います。面接の日程については掲示します。面接の際は必ずメール (hanada@seinan-gu.ac.jp) で必ずアポを取り、学術研究所入口の電話で予め連絡をすること。

◇ゼミの方針◇

とにかく楽しく勉強したいので、和やかな雰囲気を保ちたいです。ゼミの仲間の話に耳を傾け、自分の意見を自然に言い、議論できるような場にしたいです。ゼミコンは年2回程度(多いときは5回以上)し、4年生との縦コンも行います。福岡市内にある世界各国料理店をゼミコンの場としています。

◇ゼミの参考図書◇

S.A.Epstein,*An Economic and Social History of Later Medieval Europe 1000-1500* (Cambridge UP) / R.Bonney,Ed.,*Economic Systems and State Finance* (Oxford) / Ch.Tilly and W.P.Blockmans,Ed.,*Cities and the Rise of States in Europe A.D.1000 to 1800* (Westview)/D.Nicholas,*Urban Europe 1100-1700*(Palgrave Macmillan) / J.Brasseul,*Histoire des faits économiques* (Armand Colin) / Fr.Crouzet,*A History of the European Economy,1000-2000*(University of Virginia Press) / 南塚・秋田・高澤編『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える—』(ミネルヴァ書房、2016年) / 中井・佐藤・渋谷他編『教養のための西洋史入門』(ミネルヴァ書房、2007年)

◇最近の主要な卒論テーマ◇

ゼミでは卒論を重視します。歴史のゼミなので、卒論の規定字数も32000字以上とし、参考文献数も50冊以上を求めています。外国をテーマとするので、英語、フランス語などの外国語文献を使って、卒論を書くことをすすめます。数年に一度ですが洋書を読破して、卒論を書いてくれる学生もいます。以下に昨年度の主要な卒論テーマを列挙します。

「近代ドイツ史における軍事戦略家」「コーヒーハウスの盛衰」「総力戦における食糧に関する考察」「西洋服飾史」「西洋における建築様式の変遷」「世界の食糧問題」「中世都市の自由と自治」

【過去の卒論のテーマ】

西洋社会経済：百年戦争の軍隊、ジャンヌ・ダルク、疫病、イタリア都市史、中世の貿易

中世パリ史、城塞史、イギリス産業革命、軍事史

宗 教 史：タルムード研究、教会建築史、大聖堂、修道院

文 化 史：西洋音楽史、絵画史、万国博覧会、人物史、メルヒェン・年代記などの分析

民 族 史：ユダヤ人、ヴァイキング、イタリア商人

軍 事 史：WW I、WW II、ベトナム戦争、軍事技術史、戦争の歴史

◇ゼミ生の過去の就職先◇

銀行・証券などの金融系、住宅、食料・飲料、電気、自動車、コンピュータなどのメーカー、高校・中学の地歴教員、公務員(県庁・市役所)、郵政、警察、生命保険、ホテル、ブライダル、旅行、製薬、出版、グランドスタッフ、スチュワーデス、アナウンサーなど。大学教員になった人もいます。最近では、海外青年協力隊員、空港管制官、日本語教師など、高い語学力を要する仕事に就く人も増えています。

西洋中世 世界経済の中心 シャンパーニュ大市



▲ ラニィ=シュル=マルヌの年市開催広場



▲ バル=シュル=オーブの
サン=ピエール教会
木造回廊が年市開催地



▲ プロヴァンの高台区 年市開催広場

トロワの旧市街区 年市開催広場 ▼



写真内の建物の大部分は 13 世紀のもの。市
内にはたくさんの地下倉庫も現存している。





——プロフィール——

氏 名：平井 秀明（ひらい しゅうめい）

生年月日：1978年 8月16日（東京都出身）

2017年度担当科目：ミクロ経済学Ⅰなど

専 門：ミクロ経済学，ゲーム理論

趣 味：スポーツ全般（特に野球はまだ現役のつもり）

● 演習内容

[1] テーマ：

ゲーム理論の社会経済問題への応用

[2] テーマの解説

- ゲーム理論とは：

私たちは、日々様々な決断をしています。少しかたい言葉を使えば、意思決定をしています。今日は授業に出るか（？）、お昼は何を食べようかといった日常の事柄から、どの大学に入学しようか、どういった業種の会社に就職しようかといった人生の節目まで。私たちの生活は意思決定に始まり意思決定に終わると言っても過言ではありません。また、意思決定をするのは個人だけではありません。企業は、商品の価格を幾らにしようか、新商品をいつ販売するかなどを決めています。また、政府も消費税を上げるか否か、他国と自由貿易を締結するかなどの意思決定を行っています。ここで重要なことは、これら意思決定の多くは自分（自社・自国）だけで完結するものではないということです。例えば、企業が自社の商品価格を決める際に、ライバル企業の商品価格は幾らか（幾らになるか）を予想することは、自社商品の売り上げに大きな影響を与えるためとても重要になります。このように、私たちの意思決定は他の人々の意思決定に影響を及ぼし、同様に、他の人々の意思決定は私たちの意思決定に影響を及ぼしています。ゲーム理論とは、このような複数の意思決定者の間の相互依存関係を分析する理論です。

- ゲーム理論の分析対象：

ゲーム理論が分析対象としている状況、すなわち、複数の意思決定者が駆け引きを行っている状況を、ゲーム的状況、もしくは戦略的状況と呼びます。私たちが社会で生活するおよそあらゆる場面に、ゲーム的状況は存在します。例えば、皆さんはエスカレーターに乗るとき、急いでいないときは左と右のどちらに寄っていますか？おそらく左側だろうと思います（ちなみに、関東でも同じですが、関西では逆に右に寄って左側を空けています）。このように、エスカレーターに乗るときどちら側に位置するのかは、他の人の意思決定（左にいるか右にいるか）に大きく依存しており、立

派なゲーム的状况です。こうした日常生活の例も含めて、ゲーム理論は経済学に留まらず、経営学、政治学、法学、社会学、心理学、生物学、スポーツ科学など、極めて広範な問題の分析に応用されています。

- 目標：

本演習の目標は、ゲーム理論という分析手法を身につけてもらうのと同時に、ゲーム理論を通して各自・各グループが興味を持つ社会経済現象を考察してもらうことにあります。

[3] 進め方

下記記載のテキストと各グループが興味・関心を持っている調査研究テーマに関して講義・報告・議論をしていきます。基本的に1回の授業時間で、テキストと調査研究テーマに割り当てる時間はそれぞれ50%を予定しています。但し、前期は指定テキスト、後期はグループでの調査研究報告に若干ウェイトが置かれる予定です。

[4] テキスト（購入義務あり）

渡辺隆裕『ゼミナール ゲーム理論入門』日本経済新聞出版社、2008年。

[5] 参考書（購入義務なし）

岡田章『ゲーム理論・入門 [新版]』有斐閣アルマ、2014年。

尾山大輔・安田洋佑『改訂版 経済学で出る数学—高校数学からきちんと攻める』日本評論社、2013年。

神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年。

為末大『限界の正体—自分の見えない檻から抜け出す法』SB Creative、2016年。

柳川範之『東大教授が教える独学勉強法』草思社、2014年。

[6] 評価方法

報告・出席状況およびレポート内容を総合的に見て評価します。

[7] 各種ゼミ・イベントについて

ゼミを盛り上げる企画（ゼミコンパ、ゼミ合宿など）があれば、受講生の皆さんから積極的に提案してください。何らかの企画をやるやらない、ペースなどは受講生の意向を尊重します。

● 選考方法など

[1] 応募を検討している学生への要望

- 本演習は担当講師を含めた受講生全員の報告・議論によって成り立つので、積極的かつ主体的な

学習態度や発言姿勢を強く望みます。

- 本演習の履修要件とはしませんが「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」を履修済み、もしくは履修予定であることが望ましい。
- 応募に際しては指定テキスト『ゼミナール ゲーム理論入門』などを図書館で閲覧するなどして、「ゲーム理論」に興味を持てそうか否か確認しておくことを薦めます。
- 次の言葉に共感を覚えるなら、なお望ましい。

「教わって覚えたモノは浅いけれど、自分で苦しんで考えたことは深いんですよ。」

(What is taught is shallow knowledge while what one has thought out hard takes root deep.)

(早川徳治, 1893－1980. シャープペンシルを発明. 1925年国産初鉱石ラジオを開発. シャープ創業者.)

[2] 選考方法

- 担当講師の「演習Ⅰ」は経済学科の学生のみが履修可能となっています。
- 演習Ⅰ申込書、志望理由と（面接を実施すれば）面接内容を総合的に見て判断します。
- 面接の有無は募集期間中に掲示板等を通してアナウンスするので、必ず確認してください。

● その他

本演習に関して質問があれば、hirai@seinan-gu.ac.jp 宛てにメールを送ってください（メールには件名、氏名、学部・学科、在学番号を記載してください）。



—— プロフィール ——

出身：埼玉県。2006年4月に初めて福岡に移り、今年で福岡在住12年目。その間、2010年8月から9月まで中国・吉林省の長春市に派遣交換研究員として滞在し、2012年9月初旬から2013年9月初旬まで香港にて在外研究に従事。

専門：労働経済学、人的資源論、労働調査、大学史

趣味：下記の通り、いろいろ。

- ・ 電気街や古本街を巡り歩くこと。電気街では、秋葉原（東京）・日本橋（大阪）・大須（名古屋）は制覇済み。福岡にはそうした場所が見あたらないのが残念。
- ・ 古墳巡り。九州は装飾古墳や石人石馬など、全国的にも珍しい古墳の多い地域です。
- ・ 国内旅行。47都道府県のうち未踏破県がまだ5つあるので、それらを制覇するのが当面の目標。
- ・ 海外旅行。これまで訪問・長期滞在したのは以下の15ヶ国・地域です。
中国、台湾、香港、マカオ、韓国；タイ、シンガポール、マレーシア、ベトナム；インド、ネパール；イタリア、アイルランド、イギリス；アメリカ合衆国。
このうち中国は沿岸部を中心に12都市を訪問済み。当面の目標（？）は、中国の華南地方の内陸都市を訪れることと、東南アジア諸国を制覇すること。
- ・ 上記以外：マンガやアニメ・映画の鑑賞（ただし主に1980年代以前のもの）やラジオ番組を聞くこと、全国各地の路面電車の乗車、城巡り、文学館巡り、世界のチャイナタウン巡り（国内は制覇済み）、世界遺産巡り、産業遺産巡り、など。ちなみに最近読んで面白かったマンガは、（今更ながら）横山光輝版『三国志』。これを読んでようやく「孔明の罠」の元ネタがわかった（笑）。

演習テーマ：九州の企業を知る

このゼミでは過去5年間、「九州経済を学ぶ」というテーマを掲げてきましたが、使用テキストが古くなったことや、九州経済論を内容とする「地域開発論」が2017年度から開講されていることなどを踏まえて、2018年度からは上記のようなテーマに変更することにしました。学卒後、大部分の人は企業（その類似組織である官庁などを含む）で働くことになります。それ故、卒業までに、企業の法制度的な仕組みについての基礎知識を、具体例を通じて学んでおくことは非常に重要です。にも関わらず、本学経済学部では現在、企業の具体的な仕組みについて学ぶことのできる講義はほとんどありません。また高校の「政治経済」では企業の仕組みについて学ぶ単位がありますが、この科目は未履修者のほうが多いでしょう。そこでこのゼミでは、企業（特に株式会社）の法制度的な仕組み、及びその具体的な事例を、主に九州に本社を置く企業に即して学びたいと思います。そうした作業を通じて、アルバイト先の会社、名前は知っているけど事業内容は知らない地元企業、または隠れた優良企業などを深く知る手がかりを得るとともに、やがて始まる就活のための企業・業界研究の一助にして欲しいと思っています。またこの作業は間接的に、「九州経済を学ぶ」ということにもつながるでしょう。

ゼミのイベントとしては、九州の工場や産業遺跡の見学も計画しています。これまでに見学した事業所は、J:COM、TNC、サッポロビール九州日田工場、ふくや、アサヒビール博多工場、麒麟ビアパーク福岡、サントリー九州熊本工場、西日本新聞製作センターです。ちなみにゼミ旅行では、スペースワールド、能古島、グリーンランド、長崎・伊王島、大分・九重、阿蘇大観峰、長崎ハウステンボスなどに行きました。去年は8月に軍艦島ツアーを企画したのですが、当日は晴天だったにもかかわらず、現地到着直前にまさかの「高波による欠航」で中止の憂き目に遭いました……。

なお上記テーマとは別に、余裕があればゼミの合間に以下のいずれかのサブテーマに関する特別研究もしたいと考えています。

(1) 九州と石炭・炭鉱

北部九州はかつて炭鉱で栄え、石炭産業は日本の産業革命の先導役として大きな役割を果たしてきました。本学近隣の姪浜にもかつて「早良炭鉱」がありました。しかし1950年代以降のエネルギー革命と国策の転換により石炭産業は凋落し、三井三池争議の後に残った「旧産炭地域」では産業構造の転換が後れ、福岡県には人口流出や財政難に苦しむ自治体が多く存在します。ちなみに(福岡市ではなく)福岡県の最低賃金が全国平均より低い理由の一つは、この問題と関連があります。

しかし近年、山本作兵衛氏の炭坑記録画・記録文書のユネスコ「世界記憶遺産」指定や、九州・山口地域を中心とする「明治日本の産業革命遺産」の「世界文化遺産」指定などを通じて、炭鉱に新たな光が当てられるようになりました。また海外に目を転じれば、石炭は今でも多くの国で重要なエネルギー源として利用されています。日本でも、東日本大震災後の原発再稼働が遅れる中で、2016年の電力小売り全面自由化や、発電効率が高くCO2排出量も少ない新技術「石炭ガス化複合発電(IGCC)」の開発などを背景に、燃料費が安い石炭火力発電に再び注目が集まっています。

九州人である皆さんには社会人になる前に、こうした石炭・炭鉱問題の基礎知識を知ってもらいたいと思っています。九州と同じく「旧産炭地域」を抱える北海道と比較するのも面白いでしょう。

(2) 沖縄を知る

沖縄というと、亜熱帯・常夏の「観光の島」というイメージを思い浮かべる人が多いかもしれません。最近では米軍基地の返還・移設問題に関するニュースが多いので、「基地の島」というイメージを持つ人もいるかもしれません。また、第二次世界大戦での凄惨な経験から「慰霊の島」と称されることもあります。しかし、その実態については、地理的に近い九州人でもよく知らないのではないのでしょうか。九州人にとっては寧ろ、「九州・山口地区」という言葉もあるくらいなので、山口のほうが身近な存在かもしれません。

しかし、「沖縄からは日本がよく見える」とも言われるように、沖縄について学ぶことは、日本の抱える様々な問題についての理解を深めるきっかけにもなります。そこでゼミで、近いようで遠い存在である沖縄の歴史や文化、社会経済問題(「3K経済」問題、本土との格差および沖縄県内

の格差、日米地位協定など)を知る機会を設けたいと思っています。余談ですが、同じ亜熱帯に属し、かつて海上交易で栄えた歴史を持ちながら、現在では金融・観光・IT産業による振興を図っている点などで、沖縄は香港とよく似ています。余裕があれば、両者の比較もしてみたいと考えています。

(3) 九州災害史を学ぶ

九州は最近まで、水害や火山噴火などのリスクは他地域より高いものの、地震のそれは少ないと思われてきました。しかし今年4月の熊本地震をきっかけに、九州における災害の歴史に改めて注目が集まり、文献・現地調査を通じて、九州でも各地で過去に大きな地震災害が少なからず起きていたことが確認されています。九州で暮らそうと思えば、自然災害のリスクは常につきまといます。九州特有のリスクとして、火山噴火と地震、さらにはそれらによる原発被災という「複合災害」の可能性も指摘されています。自然災害は大きな経済的損失をもたらし、またその後の経済的復興が大きな課題になるなど、経済問題として考察することも可能です。九州(及び全国各地)の災害史の学習を通じて、こうした問題に対して先人がどう対処したのか、ゼミで学べればと思っています。

選考方法など

入ゼミ希望者は、申込書の志望欄に下記の項目を記入して下さい。

- ・簡単な自己紹介/自己アピール・ゼミで学びたい特別研究のテーマとその理由(上記3つのいずれか、もしくは具体的な希望があればそれ以外でも可)
- ・ゼミで開催したいイベント(ゼミ旅行や合宿、各種レクリエーションなど)の具体的な企画
ゼミ生には原則として、「労働経済学」、「労働政策」(もしくは「社会政策」)、「地域開発論」のうちのいずれか2科目(以上)を受講することを義務づけます。また4年時には就活レポートを提出してもらいます。

質問があれば、k-isa@seinan-gu.ac.jp宛にメールで問い合わせをして下さい。面会が必要であれば、メールで面会約束を取り付けてから、研究室に来てください。

※なお、この演習は経済学科の学生を対象としています。

—— プロフィール ——

担当科目：産業組織論

演習のテーマ：ビジネス・エコノミクス

最近関心のあること：C言語（数値計算用）、今泉食べ歩き、

映画『人間の証明』、銀魂



© Ai Hiroshige

経済学科の学生を対象とする演習です。

テーマの解説：

産業組織論は、企業や産業に関心を払う分野ですが、ミクロ経済学の応用という色合いが強い研究領域です。このゼミでも、「企業・産業・市場」にテーマを絞って勉強していきます。しかし、受講生それぞれが持つ知識や関心は多様であるため、理論的・抽象的な内容に統一してゼミを進めていくことは困難だと思われます。そこで、産業組織論をより具体的かつ実践的なアプローチから学んでいくことを目標に、ゼミを進めていきます（数学モデルを用いた産業組織論はこのゼミでは扱いません。本学的に学びたい人は、別途時間を設けますので遠慮なくお知らせください）。

2018年度は、『ビジネス・エコノミクス』に関する文献を読んでいます。『ビジネス・エコノミクス』は、経済学と経営学の間位置する分野で、特に産業組織論の理論を応用して現実のビジネスを分析していくことに関心を払っています。ゼミの主な課題は、『ビジネス・エコノミクス』の学習を通じて、産業組織論を実際の産業や企業の事例に当てはめて考えていくことです。本ゼミの受講生は、企業や産業の現状に詳しくなるだけでなく、さらに理論的に分析できる思考能力が養われることとなり、他の経済学部生と「差別化」を図ることができるものと期待しています。2018年度のゼミは、『コーポレート・ファイナンス』の分野にも挑戦してみようと思いますが、現在検討中です（未定です）。演習で扱う具体的なテーマは以下の通りです。

- | | | |
|-------------|------------|------------------|
| ・ いろんな価格や料金 | ・ 流通メカニズム | ・ 市場メカニズム |
| ・ 価格差別 | ・ 企業のゲーム理論 | ・ ポーターの競争戦略論 |
| ・ 株式会社の基礎知識 | ・ 独占禁止法 | ・ 最低限度必要な財務諸表の知識 |

テキスト：（あるいはゼミで扱うテーマが書かれているテキスト）

- [1] 伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』（日本経済新聞社、2004年）
- [2] 吉本佳生『スタバではグランデを買え！：価格と生活の経済学』（ダイヤモンド社、2007年）
- [3] 吉本佳生『クルマは家電量販店で買え！：価格と生活の経済学』（ダイヤモンド社、2008年）
- [4] 吉本佳生『マクドナルドはなぜケータイで安売りを始めたのか？：クーポン・オマケ・ゲームのビジネス戦略』（講談社 biz、2010年）
- [5] 小樽商科大学ビジネススクール（編）『MBAのためのビジネスエコノミクス』（同文館出版、2012年）

[6] 伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』（有斐閣，2012年）

[7] 御立尚資，柳川範之『ビジネスゲームセオリー：経営戦略をゲーム理論で考える』（日本評論社，2014年）

演習の進め方：

テキストを一緒に読み進めます（輪読）。何人かの担当者が報告をし、それに対して質疑応答・コメントを繰り返し、さらに与えられた課題に取り組むことで理解を深めていきます。課題については、自家製のワークブックをもとに、テキストに関連する練習問題を解きます。これとは別に、毎回、「日経 TEST」、「ニュース検定」、「ビジネス数学」などの問題集からコピーしたものを配布し、問題に取り組むことで、時事問題や数字に強くなることを目指します。自分の手を動かすこと、自分の頭で考えることに力を入れてゼミを進めていきます。

期末試験は行いませんが、前期・後期に1回ずつ報告会を開催し、試験の替わりとします。

評価方法：

積極的に演習に参加しているか、また発言しているか、で判断し評価します。つまり、欠席が多い人、遅刻の多い人、やる気のない人、発言を求められても何も言わない人などに対しては、D判定を下します。

皆さんへの要望：

良い雰囲気と厳格な雰囲気の下でゼミが進められることを望みます。ゼミを組織・運営すること・盛り上げることが得意な人、とにかく明るい人・よく喋る人・ハイテンションの人・情熱的な人、あるいは課題に対して真剣に取り組める誠実な人を歓迎します（どれか1つでも当てはまれば歓迎します）。特にゼミを引っ張ってくれるリーダー格（あるいは教員に対抗できるぐらいの実力を持った人）が一人でもゼミにいてくれると、ゼミは大変盛り上がります。

勉強以外のイベント：

ゼミ合宿やゼミコンパは希望があれば行っています（参加は強制ではない。参加しなくても単位に影響しない）。ゼミ旅行について、一昨年度については、4年生は台湾（超格安）旅行、3年生は門司・下関の日帰り旅行を敢行しました。昨年度は、4年生は伊勢・名古屋旅行、3年生はグリーンランド旅行をやりました。今年度は、大阪・和歌山旅行（4年生）、柳川川下り（3年生）を予定しています。その他のイベントについても、極力ゼミ生の意向に沿い、自主性を重んじるようにしています。ただし、勉強を阻害しないことが条件です。ゼミコンパに関しては、例年1年間に2～3回行い、さらに縦コンも1、2回行います。

ゼミ生のコーナー：

加藤浩ゼミの特徴を表すと…？

◎仲良しゼミ

3年生の頃から、親睦を深めるためにイベントを企画するので自然と仲良くなれます！遠足やボウリング大会・旅行・ランチなど、仲良くなるきっかけが沢山あります。

◎勉強内容が面白い

自分が何気なく利用しているモノや場所など、身近な内容を例に勉強ができるので楽しいです。また、学ぶだけでなく対抗ゼミなどの発表する場があることで、しっかり知識が身に付くと思います。

◎何事にも全力

勉強だけでなく遊びにも全力。やる時はやるゼミです。

◎就活にも役立つ

ゼミ生同士で就活の情報交換する事はもちろん、縦コンで先輩とも繋がりを持てます。そこで先輩に質問したり相談に乗ってもらったりする事ができます。

◎先生が優しい

一人ひとりの将来のことを親身になって考えてくれる先生だと思います。授業で分からないことがあれば、理解できるまで説明してくれます。就活やエントリーシートで悩んでいる際にも、アドバイスをくれました。

◎“クラス”って感じのゼミ

みんなが打ち解けていて、意見が言いやすい環境だと思います。経済学部は少人数の授業が少ないので、ゼミが一週間の中でも楽しみな時間となっています。

先生は、私たちの“やりたい”という気持ちに応えてくれ、入ってよかったと思えるゼミ作りをサポートしてくれます。ぜひ、加藤浩ゼミに入って大学生活を有意義に過ごしてください☆彡



ゼミコン



伊勢神宮旅行



グリーンランド旅行



他ゼミとの対抗ゼミ大会



3年生・4年生のゼミ報告会

西 日 本 新 聞 (朝) 2017年(平成29年)6月21日 水曜日 19版

西南大生 商店街で勉強指導

西区姪の浜 小中高生を対象に



西南学院大の学生に勉強を教えてもらう中学生(中央)

ゼミの一環で取り組み

福岡市西区姪の浜3丁目の姪浜商店街にある交流施設「MSコミュニティ」で毎週土曜日午後1時〜7時に西南学院大(早良区)の学生2人が、小中学生、高校生に勉強を教えたり、訪問者に本を貸したりする「MSとしょかん」を開催している。同大経済学部の小出秀雄教授ゼミが「MSコミュニティ」で取り組む活動の一つで、5月に始めた。担当しているのは小出教授の授業を受けている神学

教わっていた姪浜中2年、吉永大祐さん(13)は「分かりやすい。また来たい」と笑顔を見せた。上條さんは「地域の中で文化の向上や経済の循環を目指す試みです」と狙いを語る。高野さんは「まだ知られていないので気軽に訪

れてほしい」と話す。西南学院大の小出教授の研究室11092(823)4318。(野津原広中)

《2017年6月21日西日本新聞朝刊、20面》

—プロフィール—

1971(昭和46)年11月10日生まれ。新潟県三条市(金物・刃物のまち)出身。一橋大学博士(経済学)。担当している専門科目は、環境政策、環境経済学、各種演習など。

専門：環境経済学、地域と大学が協働する「域学連携」、次世代教育。

行政の仕事：春日市環境審議会委員、福岡市環境審議会委員、福岡県食品ロス削減推進協議会委員など。

趣味：Facebook と Messenger で教育研究業務を行うこと。LINE は業務連絡専用。

情報公開：Facebook <<https://www.facebook.com/hideo.koide.96>>、

講義関連 <<http://koidekankyo.seesaa.net/>>、姪浜西南大学まち(西南学院大学教育インキュベーションプログラム) <<https://www.facebook.com/meinoseinan>><<http://meinoseinan.seesaa.net/>>

【演習のねらい】

この演習では、地域活性化・域学連携に関する重要な文献を輪読し研究する「座学」を行う一方、福岡市西区姪浜地域等を具体的な活動・研究フィールドとして、同地域の方々やゼミ外・学外の学生有志とともに地域活性化を「実践」します。つまり、座学と実践を行ったり来たり、うまくいったり失敗したりしながら、将来の社会・地域を担う主体的な人材を育成します。

なお、この演習は経済学科生を対象としています。

【演習のテーマ、テキストと段取り】

[1] 今のところ、下記のテキストを使用する予定です。

＊山納洋著 (2016) 『つながるカフェ：コミュニティの〈場〉をつくる方法』 学芸出版社。

＊竹本昌史著 (2016) 『地方創生まちづくり大事典』 国書刊行会（部分的に使用）。

[2] テキストを輪読する一方、個人あるいはチームでテーマを設定し、活動・研究報告を行います。

また、姪浜等における地域活性化イベントの企画・運営を、日常的に実践します。そして、前期末と後期末には、自分およびチームの活動・研究をまとめる形で、レポートを提出します。姪浜の「M's コミュニティ」や全国規模の会合等で、報告を行うこともあります。

[3] 座学では毎回、報告者1～数名に対して司会者1名をつけ、報告（プレゼン）と討論（質疑応答）を行います。報告者は報告に先立ち、その内容を端的にまとめた「レジュメ」や補足資料を参加者に配布します。レジュメの棒読みになったり単調で退屈な報告になったりしないよう、かなりの工夫が必要です。特にチーム報告では、PowerPoint を活用したわかりやすい表現を心がけます。

[4] また、司会者は報告・討論全体を仕切る立場として、参加者に発言を求めたり、議論を総括したりする役割を担います。こちらも神経を使う仕事で、場の流れをつくることが要求されます。前回より、確実にうまくなりましょう（うまくなるように「頑張る」のは当たり前）。

[5] 期末のレポートをいかに作成するかは、非常に重要なテーマですので、指導を徹底します。基本は、文章（一文、一段落）は短く簡潔に、です。なお最近は、インターネット上に漂う文章をコピー＆ペーストしたり、図表の出所を書かなかったりする学生が目立ちますが、「コピペルナー」という PC ソフトを使って、不正をすぐに暴きます。

【参考書 and more】

参考書については、新年度の講義要綱にて、あるいはその都度指示します。インターネットの検索ばかりに頼らず、図書館に所蔵する本や書店に並んでいる新刊などを貪欲に探して読みましょう。もっとも、ネット上にも学術論文や有益な文献が無数に存在しますので、話は単純ではありませんが。

なお、Wikipedia だけ眺めて悟った気になる学生が、年々着実に増えています。手っ取り早く知りたいという（検索）ツールとして Wikipedia は有用ですが、その脚注、参考文献、外部リンクな

ど、その説明の土台を成している情報までさかのぼって調べていくことが重要です。これは、紙製の文献であっても同様です。その筆者の拠り所としている情報は、脚注や参考文献に明記されています。

現在から過去にさかのぼり、経緯を丹念に調べ、再び現在に戻り整理することによって、学問というものが「検索一発」で理解できる代物ではないことを実感してください。

【評価方法】

出席状況、平常点、レポートの内容、地域活性化イベントへの貢献に基づいて評価します。

【演習受講者の選抜基準】

面接を行います。

【ゼミ生への要望】

1. 時間を守りましょう。約束を守りましょう。
2. 大きな声でみんなにあいさつをしましょう。
3. 指名される前に、自主的に発言しましょう。
4. 地域や本学でのイベントに関わりましょう。
5. 協力する楽しさと難しさを実感しましょう。

【2016年度の卒業論文のタイトル（在学番号順）】

「日本はギャンブル大国になるのか」「熊本城の歴史と学生目線での実態」「電子書籍の普及」「絶対に外さない映画の楽しみ方」「プロ野球経済の現在と未来」「ソーシャルゲームの抱える問題」「地方創生による飯塚市の現状と将来」「映画で見る恐怖の歴史」「家族のかたち」「ラテンアメリカのサッカー選手の強さの要因について」

【地域に完全に開かれたゼミ＝小出ゼミ】

小出ゼミを中心とする西南学院大学教育インキュベートプログラム「姪浜西南大学まち」は、2015年度後期から3年間実施している、地域で学生が活動し地域の方がゼミに参加するという、地域に完全に開かれた取組です。活動の内容については、日々学生たちが発信している Facebook <<https://www.facebook.com/meinoseinan>> や、募集案内やメディア掲載記録が中心のブログ <<http://meinoseinan.seesaa.net/>> をご覧ください。小出ゼミは、他学部や他大学の学生とともに活動し、将来の社会・地域を担うためのさまざまなチャレンジを推進しています。

以下は2017年9月15日、3年小出ゼミの濱里・森田・野川が「全国まちづくりカレッジ2017 in 宇治」（京都文教大学にて開催）のプレゼンで使用した、スライドの一部です。

姪浜西南大学まち (西南学院大学教育インキュベートプログラム)



→調査→課題発見→解決→活性化→

4

姪浜西南大学まち 西新支店

- ・西新校区夜の防犯パトロール（夜回り）
西新校区自治協議会主催
月1回 1時間程度
毎回30人程度で活動 しかし学生は5人程度



- ・今後は青パト免許講習会等を開いて
防犯意識の向上を目指す



学生の参加を促すには？

10

AQUA SOCIAL FES!! in 福岡



2016~17年度の活動

【M'sコミュニティ】
地域と大学の交流拠点
【姪浜買物広場】
交流イベント

【姪浜住吉神社】
姪の浜文化祭サポート

【各地でプレゼン】
AQUA SOCIAL FES!! in 福岡サポート
西新でWS主催

【探題神社】
柵工事・まつり運営

【大学】
地域とつながる浴衣イベント

【西新小学校】
イベントサポート
【西新校区】
防犯パトロール

【小出ゼミ】
社会人基礎力育成WS

©姪浜西南大学まち

以上



米国カリフォルニア州・Tamien 駅にて

—— プロフィール ——

出 身：1981年福岡県生まれ

専 門：財政学、公共経済学、都市経済学、政治経済学

担当科目：財政学総論

元 職：財務省財務総合政策研究所研究官

現 職：西南学院大学経済学部経済学科教授

連 絡 先：研究室431号室、kondoh@seinan-gu.ac.jp

趣 味：旅と鉄道、ドライブ等

ゼミの運営方針：

一言で言うと、「よく学び、よく遊べ」です。自分たちで興味を持った課題に対して、他のメンバーとともに取り組んで、大学生でしかできない勉強をして欲しいと考えています。同時に勉強だけでなく、各種イベントを通じ、ゼミ生間の絆を深めて頂きたいと考えています。また、外部との交流（他大学との合同ゼミ等）を積極的に行っています。学部や西南の枠に囚われず、自分の力を高めてほしいと考えているからです。2018年度は、私が国内研究に入るため、この演習Ⅰは前期集中となります。ゼミが週2回となることで例年とはやや変則的にはなりますが、それによって負担感が増えないように配慮するつもりです。が、ゼミ活動を有意義にするために皆さんの意欲は必要です。

2018年度テーマ：「アベノミクスと消費増税後の財政・経済」

2018年度は、第2次以降の安倍政権で取り組まれてきた経済政策（アベノミクス）と2014年4月に実施され、2019年10月にも予定されている消費増税を取り上げ、アベノミクスの成否や、消費増税の理由や効果について、いろいろな角度から皆さんに調べてもらいながら、経済学的な知見を活かして、理解を深めてほしいと考えています。

① なぜ、「アベノミクス」「消費増税」なのか？

端的に言えば、皆さんにとって身近な経済問題だからということですが、少子高齢化がより一層進む2020年代を目前に、将来の日本経済を考えるためにも、アベノミクスとは何だったかを経済学的に総括しておくことが重要だと考えるからです。でも、アベノミクスとは何で、どういうことを目的としていたのか、またその効果についてきちんと説明できる人は少ないのではないのでしょうか。また、消費増税という話がどうして出てきて、増税するとどのような効果があるかをきちんと語れる人も少ないのではないかと思います。そこで、皆さんには経済学を学んでいるという強みを生かして、アベノミクス（もしくは消費増税）の中身とその効果について、ちゃんとした文献を読んで、経済学的に分析し、巷の怪しい議論に惑わされないようになってほしいというのがこの演習の狙いです。

② 演習の内容（2017年度の場合）

原則として、半期で1冊テキストを決めて、輪読形式で進めており、班ごとの報告打ち合わせと、報告を交互に行っています。報告打ち合わせの回では、私が作成したワークシート（メモ用紙のようなものと考えて下さい）に班のメンバーがテキストを読んで疑問に思ったことや次回質問したい内容についてまとめてもらいます。また、報告の回では、報告～班による話し合いの時間～質疑応答という流れで進めています。

テキストは前期については、アベノミクスの経済分析として骨太な、池尾(2013)を読みました。テキストはやっぱり難しいようですが、班での話し合いは結構活発で、班によっては独自の調査を発表してくれたりしています。

外部との交流にも積極的に取り組んでおり、9月には、従来から交流がある九州大学浦川ゼミ（社会保障論）との合同ゼミを実施しました。懇親会は例年盛り上がっているようです。年明けには、これもやや恒例化した、加藤浩ゼミとの合同ゼミを予定しています。

教科書候補：

池尾和人(2013)『連続講義・デフレと経済政策—アベノミクスの経済分析』日経BP社
翁邦雄(2017)『金利と経済』ダイヤモンド社

参考文献：

a. アベノミクス関連

原田泰・齊藤誠(2014)『徹底分析アベノミクス』中央経済社
宮尾龍蔵(2016)『非伝統的金融政策』有斐閣

b. 消費増税・財政学関連

井堀利宏(2016)『消費増税は、なぜ経済学的に正しいのか』ダイヤモンド社
加藤創太・小林慶一郎編(2017)『財政と民主主義』日本経済新聞社

評価方法：

出席、報告、参加姿勢（やる気）等に基づいて総合的に決めます。できる、できないよりも、演習や学習活動に対する積極性を評価します。なお、「財政学総論」履修のこと。

選考にあたって：

- 2016年度の選考から、本ゼミは「経済学科」の学生のみを対象とします。
- 2013年度の選考から、面接を原則廃止しました。なお、ゼミについて質問がある場合や教員がどんな人物かを確認したいなどの理由で、研究室を訪問するのは可。
- 応募人数の多寡に関わらず、ゼミ参加への意欲が著しく低いと判断される場合には、履修を許可しない可能性があります。なお、男女比を考慮することがあります。

ゼミ生に求めるもの：

ゼミ生に求めるのは、協調性、勉強への意欲、基本ルール（無断欠席、遅刻しない）順守の3つです。基本ルールを学生時代から守れない人は、社会人になっても苦労すると思うからです。

課外活動等について：

ゼミ生同士の結びつきを強めてほしいと思っているので、親睦会や旅行は積極的にできればよいと私個人は考えています。2012年度は壱岐へのゼミ合宿が実現しました。また、勉強を兼ねて、社会科見学（企業・省庁・役所・各地に点在する無駄な公共事業、インフラなど）なども歓迎します。社会科見学としては、第1期生（2011年卒）は日銀福岡支店、第2期生、第3期生（2012年卒、2013年卒）は九州エネルギー館に行きました。あと、できれば社会人の人たちの話を聞く機会も設けたいと考えています。2017年度は、財務省の岡本審議官に安倍政権で進められている成長戦略について話してもらいました。

百道浜にて▶



◀九州大学浦川ゼミ
+埼玉大学宮崎ゼミ
+西南近藤ゼミ3大学合同ゼミ
in 志賀島休暇村

近藤ゼミ(学生版)

ゼミ内容

90分みっちり型。

試験はないが、発表と出席にて評価する。

出席に関しては厳しいが、それ以外は生徒主体で授業を進める。

授業の進め方は、輪読を行いグループに分かれ、打ち合わせ→発表の流れで行っていく。

(2017年度前期：池尾和人『連続講義・デフレと経済政策』を使用)

前期と後期に各2回ずつ企画を行う。

(2017年度前期：FITZ CAFEにてランチ・百道浜にてBBQ)

インゼミにも積極的に参加。

(2017年度：中央大学、西南学院大学、東洋大学、新潟大学の4校)



ゼミ生の声

- ・先生が積極的に企画を行うように言ってくれるからみんなと仲良くなりやすい。
- ・授業中は生徒が中心なのでにぎやかな雰囲気もある。
- ・消費税など身近なことを勉強するから為になるし、わかりやすい。
- ・先生はお酒、お肉がNG(泣)

こんな人におすすめ

- グループワークが好きな人
- プレゼンがうまくなりたい人
- もっと友達が欲しい人
- 財政学に興味がある人
- 等々.....

迷うなら
近藤ゼミへ！！



—— プロフィール ——

教員の専門分野：ミクロ経済学，意思決定論

◆演習区分：

経済学科の学生のゼミです。

◆演習テーマ：

行動経済学－合理性と感情と市場の関係

◆演習テーマの解説：

例えば皆さんが季節の変わり目に新しく服とか靴とかを買おうとするとき、どんなことを気にしますか。価格とサイズは当然ですけど、デザインや色合いが自分に合うかどうかも大事ですね。しかも、それが流行のものかどうか、気になりませんか。

でも、どうして流行が気になるのでしょうか。自分に合うものはコレと決まっていれば、別に流行なんてどうでもよいのではないのでしょうか。それに、流行はいずれ変わってしまいます。なのに、なぜ他の人達が身に着けているものの傾向を意識するのでしょうか。

それから、お金を払っても痩せたいと思ったことはありませんか。男性の場合、憧れのアスリートのような肉体を手に入れたいと思ったことはありませんか。かなりの人がそれにチャレンジして軽く挫折した経験もしたのではないのでしょうか。でも、何のためですか。理想的な体脂肪率を維持した方が老後の健康状態がよいからですか。多分、そんなことよりも見た目がよくなるし、オシャレもし易くなるし、そうしたら…、というような理由の方が多いのではないですか。それって、他の人の目を気にして、誰かに評価してもらいたい、という潜在意識のようなものがあるからですよ。でも、なぜ自分で自分自身を評価するよりも、他人がどう思ってくれるかを気にしてお金を使うのでしょうか。

これらの現象は、スタンダードな経済学が前提とする意思決定理論ではうまく説明できないもので、行動経済学と呼ばれる分野の研究対象の一部です。行動経済学は、現実の人々の経済的行動パターンを研究し、それを経済現象の分析に応用する分野です。

このゼミは、行動経済学の観点を通して現実的な人々の考え方や行動を身の回りの経済問題に応用して考えることができるよう、テキストの内容に加えてゼミ生の皆さんの考え方によって議論が盛り上がっていくことを目指していきます。

◆演習の進め方：

ゼミは3つのグループに分けて、報告、質問、進行・評価をローテーションで担当するという方式をとります。グループで準備のために打合せをする時間と、実際に報告と質疑を行う時間という形で、2週間で1回というふうになります。この方法で重要なのは打合せの時間で、そこでゼミ生同士のコミュニケーションが図られます。それが互いに刺激し合うという、ゼミで最も重要な部分

を構成します。

今年度は、まず行動経済学の知見を網羅している基礎的なテキストを輪読します。それらの知見を用いて、次に独自の議論を組み立てるような経済現象の検討を行っていく予定です。

評価担当の班には、報告班と質問班の報告、質疑、レジュメの出来具合などについて、なるべく辛口でコメントすることが求められます。そのことで、プレゼンテーションの向上を目指します。グループは定期的に編成替えし、どのゼミ生ともコミュニケーションがとれる機会を確保していきます。

◆テキスト・参考文献等：

テキストは、下記の主な参考文献のなかから選択する予定です。

筒井義郎・佐々木俊一郎・山根承子『入門行動経済学』東洋経済新報社

ダン・アリエリー（櫻井祐子訳）『アリエリー教授の人生相談—行動経済学が解決する100の不合理』早川書房

ダン・アリエリー＋NHK 白熱教室制作チーム『お金と感情と意思決定の白熱教室—楽しい行動経済学』早川書房

リチャード・セイラー『行動経済学入門』ダイヤモンド社

友野典男『行動経済学—経済は「感情」で動いている』光文社

◆ゼミ生への要望：

積極性と協調性が重要です。グループ活動中心なので無断欠席や遅刻等、無責任な態度で信頼関係を壊すようなことがないように心がけてください。

特に、討論本番より打合せの方が重要だということを理解してほしいと思います。打合せのときに積極的になるほど、社会に出てから役立つ経験が得られます。

◆評価について：

もちろん、出席してゼミに参加してくれなければ話になりません。その上で、報告、討論、課題の提出等を総合して評価を決めます。基本的に試験はしませんが、ゼミ I の夏休みにはレポートを課すことがあります。



—— プロフィール ——

1956年12月生まれ（千葉県）

専 門：金融論

趣 味：初等整数論

演習テーマ：「デリバティブと FinTech」

テーマ解説

金融市場の革新的発展にはいつも驚かされます。日本では90年代に（米国に10年遅れで）デリバティブ市場が急拡大します。複雑で高度に数理的な分析を必要とするオプション、仕組債、スワップが金融界の必須の商品となりました。銀行・証券に働く者は、FP（フィナンシャル・プランナー）や外務員、証券アナリストの資格取得が求められるようになりました。これらの資格には高度な数学は必要ではありませんが、先物、オプション、スワップといったデリバティブの知識と簡単な計算は必須です。文系だから計算が苦手という人は金融には不向きかもしれません。

また2008年のリーマン・ショックで日経平均株価が最安値の6,994円となり金融市場がパニックになっているとき、正体不明の Satoshi Nakamoto が Bitcoin: A Peer-to-Peer Electronic Cash System. という論文を発表します。これが画期的な Blockchain の概念を生み、世界中で Bitcoin が使用されます。これに誘発され、FinTech（Finance+Technology）のスタートアップ企業が乱立します。これまで銀行の行ってきた決済、送金、融資、投資と言った業務を、少人数の高度な情報技術をもつスタートアップ企業が奪い取るという事態が世界各国で起こっています。すべての金融取引はスマホででき、ATM も銀行店舗も不要になり、消えると预言する識者もいます。銀行・証券・保険も淘汰され、20年後、日本に3つ金融機関しか残っていないと断言する学者もいます。本当でしょうか？

今の株取引はロボットによるアルゴリズム取引が中心です。それも高頻度取引 **HFT High frequency trading** が行われています。1秒の1000分の1という短い時間でのトレードです。こうしたロボット取引は日本では全取引量の半分以上をしめ、米国では7割を占めています。もはや人間の取引では太刀打ちできません。2010年の5月6日にロボットが勝手に暴走しました。株価が数分で暴落したのです。2013年4月23日、2015年4月24日にも暴走があり、一時止められなくなりました。こうした現象を Flash Crash と言います。

Deep learning により、人工知能 (AI) の革新は凄まじいものがあります。Singularity (技術的特異点) とは人工知能が人間の能力を超えることで起こる出来事とされ、テクノロジーが急速に変化し、それにより甚大な影響がもたらされ、人間の生活が後戻りできないほどに変容してしまうとす

る未来予測のことです。金融市場も急速に変容します。

オックスフォード大(マイケル・A・オズボーン)は2029年に Pre Singularity が起こり、職業の47%がAIに代わると予言しています。ホテルのフロント、レジ係、集金人訪問販売員、トラック・タクシー運転手、映写技師、塗装工、測量士、簿記・会計士、税理士、金融機関のクレジットアナリスト、証券トレーダー、等は不要になるそうです。

今年度はデリバティブの基礎を学びます。デリバティブの目的であるヘッジ、裁定、投機について検討し、先物、オプション、スワップについて学習します。最も重要なファイナンスの基本定理である無裁定原理を習得すること、その無裁定原理と状態価格、リスク中立確率の関係を理解することが最終目標です。オプション価格決定の問題については数学的負担が軽い離散モデルを扱います。

また FinTech については、Blockchain について学びます。Bitcoin、クラウドファンディング、Mobile 決済、Online 送金、Robot アドバイザーによる資金運用、などが従来の銀行、証券、保険会社にどのような影響を与えるかを考えます。

テキスト・参考書

『金融工学』木島正明 日経文庫(2002)

『ファイナンス理論入門』木島正明、鈴木輝好、後藤允 朝倉書店(2012)

『FinTech フィンテック』柏木亮二 日経文庫(2016)

評価方法：出席率とレポートで判断します。

受講希望者への注意

経済学科の学生のみ受講可能です。

デリバティブの理解には、数式処理、計算は必須です。簡単な確率計算(期待値、分散、共分散、相関係数)、連立方程式、最適化問題(微分、偏微分)を使います。

受講者の選抜方法：

受講希望者が定員に満たない時、原則全員受け入れます。但し、志望動機が不明な者、記述内容が不真面目な者、また単位について虚偽申告の者は落とします。

受講希望者が定員を超える時は、マクロ経済学、ミクロ経済学、経済数学、統計学の履修者にそれぞれ2単位加算し、単位取得数の多い順に受け入れます。

例：マクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、経済数学Ⅰの4科目の単位取得者は総単位数にプラス8とします。



—— プロフィール ——

専門はマクロ経済学。趣味は、ギター、シーカヤック、登山、コンピュータ・プログラミング、マイコン。1972年生まれ。子煩悩な3児の父、もちろんゼミ生にも深い愛情を注いでいます（笑）。

テーマ

メカニズムデザイン入門

はじめに

我々の周りには、「経済学で言うところの市場」で取引されていないモノで溢れています。今皆さんが決めようとしているゼミもその一つです。ゼミを受講するということは、教育サービスを消費することと同じです。しかし、入りたいゼミをおカネで買うことは出来ません。就職活動もゼミ応募活動と似ています。働く機会をおカネを払って購入できません。結婚相手も買えません。

西南の経済学部 of ゼミ募集制度は、果たして最善の方法なのでしょうか？婚活パーティーで、お相手の希望順位を出来る限り考慮し、皆にとって最善の組み合わせを実現することは出来るのでしょうか？

こうした疑問に答えるのがメカニズムデザインという学問分野です。メカニズムデザインでは、通常の市場とは異なる取引において、取引参加者が出来るだけ満足するような制度設計を考えます。経済学の歴史の中では比較的新しい分野で、1962年に発表された研究が端緒となり、この分野でノーベル経済学賞が授与されたのはわずか5年前です。しかし、実社会では既に沢山の実用化が行われています。

この講義では、欧米の腎移植マッチングで実用化されている TTC アルゴリズムや、生徒の通学先公立学校の割り当てや研修医の研修先病院の決定に使われている受入保留方式と呼ばれるマッチング・アルゴリズムを学びます。アルゴリズムというのは有限回で終了することが保証された機械的手順です。講義では、寮の部屋の交換や、結婚の最適なマッチング等の例を使って、マッチング理論のアルゴリズムを学んでいきます。さらに、こうしたアルゴリズムがパレート最適やコアなどの経済学的に望ましい概念を満たすことも学びます。

ゼミでは、一般向けに書かれたメカニズムデザインの入門書を皆で詳しく読み込んでいくと同時に、1年間かけてマッチング理論を応用した論文をチームで作成していきます。年度末には早稲田大学の政治経済学部の学生とビデオ会議システムを使って論文の発表会を行います。

このテーマによる開講は今年で3年目ですが、これまで前期で論文作成準備を終わらせ、後期からはコンピュータ・プログラミングを学び、自分たちでメカニズムデザインの問題を解くプログラムを作成しています。色々なことにチャレンジしたい意欲的な学生をお待ちしています。

講義概要

講義では、『マーケットデザイン最先端の実用的な経済学』坂井豊貴著、ちくま新書、2013年、の前半2章を皆で時間をかけて輪読します（テキストは全3章構成）。新書ですので、内容は一般向けに書かれたものです。少し頭は使いますが、初学者でも十分に読みこなせます。

講義では4班から5班に分かれ、テキストの各節を班ごとに発表し、輪読していきます。テキスト担当班以外は、テキストの例と類似の身近な問題を見つけ出し発表していきます。講義を進めながら、各班は問題点を絞っていき、前期の段階で研究計画書と論文の前書きを完成させます。毎年この段階で、かなり詳細な文章添削を行っています。

夏休み以降は、各班で研究計画書に沿って研究を進めていきます。毎年、マーケットデザインのアルゴリズムを応用する大変ユニークな問題を見つけ出し、興味深い論文が生まれています。しかし、実際の問題にアルゴリズムを適用しようとする、手作業では難しいことがほとんどです。そのため後期では、人工知能研究に使われてきたLispというプログラミング言語を学び、マーケットデザインのアルゴリズムをコンピュータ上に実装します。ただし、プログラムが完成するのは例年、4年生の夏休み前くらいになります。もちろん、それは皆さんの頑張り次第で3年生中に完成させることも不可能ではありません。

以下がこの講義で扱う教科書の目次です。

第1章 組み合わせの妙技—アルゴリズム交換とその威力

腎臓ドナーを交換しよう
どこが経済学の問題なのか
ひとりがひとつでよいならば
アルゴリズムで解いてみよう
正直は最善の策
部屋の交換から人命の救済へ
小さなサイクルだと弱い
善きサマリア人はいかに良いか
日本での活用は有効か

第2章 両思いの実現 | マッチング理論のケーススタディ

志望のゼミに入るためには
大学入学と結婚の安定性
安定マッチングと利害の一致
正直は最善の策（ふたたび）
研修医の就職活動
通う学校の組み換え
日本で導入するならば

評価方法

平常点，チームで作成した論文，定期試験の総合評価です．基礎事項の知識が定着しているようであれば定期試験を行わないこともあります．

また，このゼミでは例年，遅刻・欠席は合わせて年間2回までというルールで行っています．

選考方法

全員面談し，ゼミ生用のホームページの登録手続きを期限内に完了した学生の中から選考します．面談の日時は，選考期間中に掲示板でお知らせします．ちなみに，このゼミは経済学科の学生を対象としたゼミです．

その他

例年，キャンプ，登山，シーカヤック，ケイビング（洞窟探検）などのアウトドア活動を実施しています．アウトドア活動，イベントが好きな人は大歓迎です．

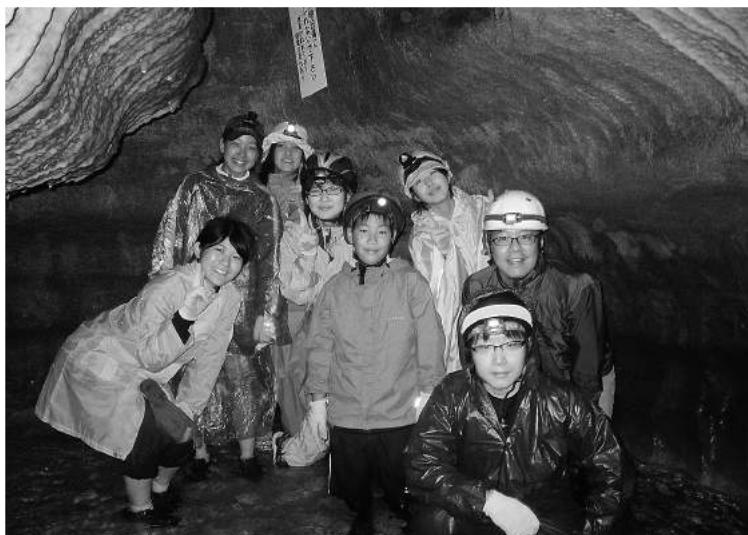
私事ですが，私はジャズ・ビッグバンドでギターを弾いています．ジャンルを問わず楽器演奏や音楽が趣味の人，ジャズが好きな人も大歓迎です．

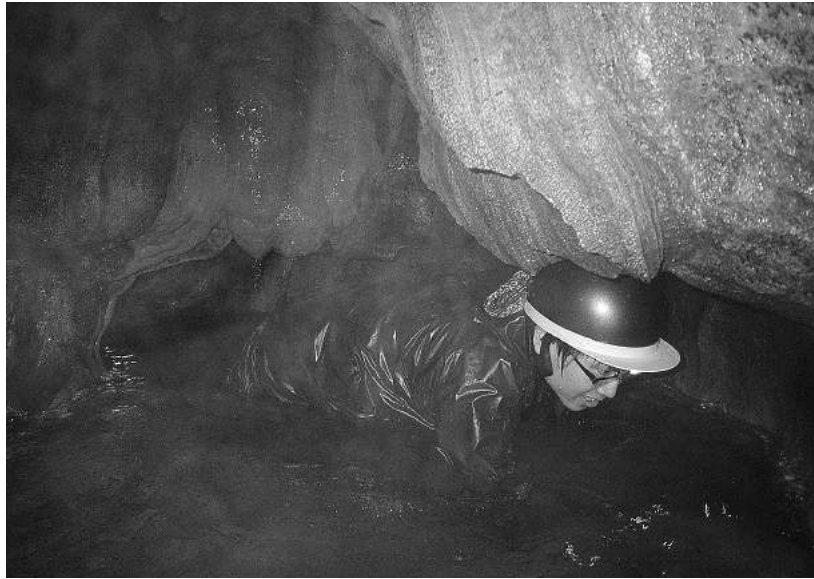
毎年，前期の間は，ゼミの後一緒に昼食をとっています．前期の木曜3限は出来るだけ空けておいて下さい．

主な就職先

三井住友銀行，みずほ銀行，新生銀行，バークレイズ投資銀行，西日本シティ銀行，十八銀行，日興コーディアル証券，大和証券，みずほインベスターズ証券，岡三証券，日本生命，AIU 保険会社，東京海上日動火災保険，ソニーファイナンスインターナショナル，三井物産フューチャーズ，東京三菱インフォメーションテクノロジー，全日空システム企画，いすゞ自動車，日立キャピタル，芙蓉総合リース，新出光，公認会計士（2名！），福岡県庁，福岡市役所，春日市役所．

上に挙げた企業以外にもプログラマとしてIT 関連企業に就職したり，ベンチャー企業で頑張っている卒業生など職種は多岐に渡っています．また，大学院に進学したり，税理士や公認会計士を目指して受験勉強中の先輩もいます．







—— プロフィール ——

氏 名：瀧井貞行

生年月日：1971年12月7日

担当科目：計量経済学Ⅰ，経済英語Ⅰ等

研究テーマ：インドネシア製造業のミクロ・データを用いた
統計分析（直接投資や貿易自由化の影響）

趣 味：ヨーグルト作り，妻とのジョギング（散歩）

注意） 経済学科の学生のみを対象とした演習です。

【演習テーマ】

「統計データを用いた経済分析」

【演習テーマの解説】

- 「自分の意見を持ち，それを人に説明し説得できること」が必要とされる場面が将来多々あると思われます。
- 人を説得させるためには「証拠」が必要となります。
- 経済問題において，その「証拠」は経済理論，（歴史的な）文献・資料，実地調査，統計データ等の中から見つけ出すことができるでしょう。
- 本演習では，統計データの中から人を説得させることのできる「証拠」を見つけ出す方法について学ぶことを目的とします。
- 演習の中でどんな経済問題をテーマとして取り扱うかは，個人個人によって違って構いません。統計データの分析をすることが本演習の共通点となります。そのため，上記の演習テーマは比較的漠然としたものとして設定しています。
- ただし，個人個人のテーマがバラバラだと演習が進めづらくなるので，直接投資や貿易の自由化に関連する国際経済・経済発展問題を主に取り扱いたいと思います。
- 必ずしも，上記のテーマでなくても統計分析が必要なテーマであれば構いません。

【演習の内容と進め方】

- 基本的には，受講生が関心を持つ研究テーマに合わせて，受講生と相談しながら演習の進め方を決めたいと思います。
- 演習の内容は大きく分けて2つに分けることができます。1つは各受講生の研究テーマに関する報告，もう1つは統計データ分析の演習となります。
- 研究テーマに関する報告では，データ分析の背後にある経済理論や，ある国を対象に分析を行

うのであればその国の経済の概要や歴史などについて報告します。

- 特に、報告書・論文を作成することを念頭に置き、なぜそのテーマを扱うのか、なぜそのテーマが調べるに値することなのか、意見をまとめるためには何を調べなければいけないのかなどを検討します。
- 統計データ分析では、データの収集・整理の方法、表やグラフの作成方法、統計学あるいは計量経済学的分析手法について学びます。

【テキスト・参考書】

- 特に、予め決められたテキストはありません。各自がテキストを選択する方法を取りたいと思います。ただし、統計分析・計量分析については受講生の関連教科の修得状況を考慮しながらテキストを決めたいと思います。

【学生への要望と受講生の選考方法・基準】

- 具体的な研究テーマがある程度、決まっている学生、あるいはすぐに決めることができる学生が望ましいです。研究テーマの選定は難しい作業ですが、慎重になりすぎると時間が足りなくなってしまうです。
- 選考では、志望理由書と面談を参考にします。「志望理由」の半分には、関心のある研究テーマを書いてください。
- 面談を行う学生に対しては、電子メールで連絡をするので、志望理由書の最後にメールアドレスを明記してください。
- 「一緒にいて気持ちのいい人」たちと生活していると、自分自身も成長できます。
- そんな素質を持った学生の集まりにできればと思います。



—— プロフィール ——

経済学部経済学科経済学専攻

夢：含蓄に富んだ美しい実証研究論文を書くこと。

好きな色：燃え上がるような情熱を連想させる赤

講義科目および専門研究分野：経済地理、経済発展論

ドイツのミュンヘン市にある老舗カフェの「アルト・シュヴァービング」にて、日曜日の朝、シャンパン付の朝食をとる筆者）。

(目的)

経済学という言葉から、皆さんはどんなことを連想しますか？ 基礎科目を履修しているとすれば、市場における企業行動、消費者行動、これら経済主体の行動が競争的市場や独占的市場においてどのような結果をもたらすかを分析する学問。あるいは、経済主体を集計レベルで扱い、利子率、国民所得、インフレーション、失業率などが相互にどのように関係しているかを考察する学問……などなど。皆さんは、どこかの教科書に記されている事柄を思い浮かべることでしょう（何も連想できない人は、少し問題です）。たしかに経済学はこれらの基礎知識の上に構築された厳密な科学であると言えます。なんだか、難しそうですね。でも心配は要りません、重要なのはこれらの道具を利用して、さまざまな現象を分析することです。

現代の経済学で扱うトピックは多岐にわたっています。例えば、青少年の犯罪、蚤の市における窃盗のような社会的問題の分析。現在の皆さんに関係深いところでは、フリーターやニートと関係する若年就職市場を扱うこともあります。さらに皆さんが「近い」将来かわかる「カモ」しれない、出産・育児と職業選択、家庭内における予算配分の問題を探求することも対象となります。ちなみに、これらはいずれも経済学の道具を縦横無尽に用いたアプローチをとっています。

ごくごく身近な社会現象も視点を変えて観察すると思わぬ発見があるものです。そして、このような発見をしたときの知的興奮は格別のものがあります。しかしながら、このような興奮を味わうためには道具が必要となります。この道具が経済学の基礎知識であると言えます。本ゼミの目的は、経済学の事例研究の学習を通じて、知的興奮の一端を味わうことです。

(メッセージ)

入学以来サークル活動、アルバイトなどを通して、皆さんは様々な経験をしたことでしょう。私自身、学生時代の経験を振り返ってみると数多くの思い出があります。その中でも、ゼミナールにおける体験はとても印象深いものでした。

ゼミナールを通してしか体験できないことも数多くあると思います。伝統的に山村ゼミでは、ゼミ

ミ生による自主的な発案を大いに取り入れています。そしてそれを実現していくのはゼミ生自身なのです。近い将来訪れる就職活動においても、ゼミナール活動は、自己アピールの格好の材料となるでしょう。

※ 経済学科の学生を対象とした演習です。

(テーマ)

自分の考え方を正確に伝えるための方法と経済学の考え方を学ぶ。ボートレースに関心があり、その選手のパフォーマンスのデータを使って分析したい人を歓迎します。

(進め方)

テキストを使って、経済学の考え方を学ぶ。時々、コンピュータ室で経済実験も行い、行動経済学を学びます。これと同時に興味に合わせて研究発表を行う。その際には資料収集の方法などを身につけます。

(ルール)

コンパ・飲食時での全面禁煙、ゼミ活動すべてにおいてスマホ等禁止。

(テキスト等)

スティーブン・レヴィット他2017『レヴィットミクロ経済学基礎編』 東洋経済新報社

(評価)

平常点により総合的に判断する（特に出席とゼミナールでの発言を重視する）。

ゼミ生の就職先

三菱電機、TOTO、公務員（福岡市）、九電工、三井住友銀行、福岡銀行、西日本銀行、肥後銀行、三和シャッター工業、福岡トヨタ自動車、みずほインベスターズ証券、損害保険ジャパン、九州リースサービス、武田製薬、J T B etc.

ゼミOB作詞作曲の山村ゼミナールのオリジナル・イメージソングです。山村教授HPでかかっている曲です <https://w3.seinan-gu.ac.jp/~yamaei/>。

この曲に何かを感じたなら、山村ゼミを志望することをすすめます。

Only You

-The Thema of Yamamura Smenar-

Music & Lyrics / hayato

$\text{♩} = 180$

あいたーい ふれたーい かんじーたーい どんなときも

きみのことがー なんていえたら

いつもふいに ころろ

のなかーうずいていーこのきもちー ゆめじゃーないてた

しかめーるよ あのひだって きみのこえにーむねがどきつとし

たんだー どうしてだろーう いつかすな

おなきーもちでー きみにー つたえよー あいたー

い ふれたーい かんじーたーい どんなときもー は

しりだせ なんて いえない できなーい たのしーい うれしー

いきみが そーばにいるだけでー ほんとーにー

国際経済学科の学生を対象とする演習

【注意】

「国際経済学科の学生を対象とする演習」には、国際経済学科の学生だけが応募できます。経済学科の学生は応募できません。

誤って他学科の学生を対象とする演習に応募した場合には、当該の選考からはずれ、自動的に次の選考に回ることになるので注意してください。



パーサクジョラシットダム駅にて
(タイ・ロップリ県)

—— プロフィール ——

東 茂樹 (ひがし しげき)

学 科：国際経済学科

担当科目：東南アジア経済論

テ ー マ：アジア経済と日本

自己紹介

大阪生まれで、高校卒業までは大阪で暮らし、大学から関東地方に移って、10年あまりアジア経済研究所にいましたが、2007年4月に西南学院大学経済学部へ赴任しました。

2013年9月から1年間、タイのタマサート大学経済学部で在外研究を行いました。久しぶりにタイに長期滞在しましたが、首都バンコクは急速に発展しており、生活の便利さは東京や大阪で暮らしているのと同様変わりません。他方で都市と地方の所得格差は拡大しており、政治対立が激化して2014年5月にまたクーデターが発生しました。経済成長が中所得国のレベルまで達すると、人材育成や技術開発などの面で構造転換を遂げない限り、さらなる成長は望めないと言われますが、タイはまさにこの産みの苦しみの状態であることが、現地で実感できました。また後発国であるタイ周辺のベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマーにも足を運び、急速に開発が進む一方で、抱えている課題についても見聞きしてきました。

演習のテーマと進め方

私の演習では、文献の輪読により、アジア経済の現状や問題点について理解を深めるとともに、アジアを対象に経済学の視点から分析する思考能力を養います。今年度の3年は、前期は2015年末に発足した東南アジア経済共同体 (AEC) において、どのようにモノ、サービス、投資の自由化が進んでいるかを学習しました。後期は日本やアジアの産業と企業に焦点を当てて、日本の産業と企業の強みと弱みを分析し、アジアの産業や企業に競争力で勝るには何が重要かについて考えています。

ゼミで取り上げている文献は、次の2冊です。(1) 浦田秀次郎ほか『ASEAN 経済共同体の実態』文眞堂、(2) 橘川武郎ほか『アジアの企業間競争』文眞堂。これらの文献では、日本企業のアジア展開のほかに、日本以外のアジア企業がいかに競争力を高めているかについて、現場に出向いて調査することにより事業の成功事例や失敗事例を分析しています。具体的な事例は、われわれの身近にあるものが多数あり、ゼミでは毎回さまざまなテーマを議論しています。アメリカ離脱後のTPP (環太平洋経済連携協定) のゆくえ、東芝の再建と半導体事業の売却など、時事ニュースの理解も深まります。

4年は卒業論文の執筆に取り組みます。卒業したゼミ生のテーマは、つぎのようなタイトルでした。「グラミン銀行の目指す貧困からの脱却」、「コンビニエンス・ストアにおけるフランチャイズ・システムの必要性・問題点」、「コミュニティ・ビジネスが高齢化社会に与える影響と地域活性化」、「BOP ビジネスによ

る「貧困」解決と日本企業、「日本農業の可能性－6次産業化の取り組み－」、「シャープ凋落から考える日本企業敗北の原因」、「TPPを契機としたフェア・ユースの導入について」、「ナショナル・アイデンティティの統一－マレーシアとシンガポール－」、「外国人労働者が日本経済に与える影響」などで、どれも力作です。卒業論文集としてまとめて、卒業式に渡しています。西南の経済で学んだ自分の努力の成果が記録として残り、社会人になってからも、この努力が活かされと考えています。

ゼミ生が選んだ卒論のテーマからもわかるように、自由貿易協定（TPP、RCEP、日中韓 FTA など）とその影響（農業、医療、自動車産業など）、企業の事業展開（アジア企業の台頭、日本企業の再編など）、途上国の直面する課題（所得格差、貧困など）などに関心がある学生は、是非ゼミに参加してください。

選抜方法

志望理由に、演習に参加したい意欲や取り組みたいことについて具体的に記述してください。その内容を中心に総合的に判断して、選抜します。

※なおこの演習は、国際経済学科の学生を対象とする演習です。

評価方法

演習では、つぎの三つのルールを設けています。①無断欠席をしない、②演習において積極的に発言する、③理解したことやさらなる課題をレポートにまとめる。この三つのルールを遵守して努力した学生には、高い評価をしたいと思います。

ゼミ生の様子

ゼミに集まってくる学生ですが、サークルや大学祭などでリーダーシップを発揮している学生、海外に行ってボランティア活動に参加する学生など、大学時代を有意義に送っている学生が多いようです。私としてはゼミに取り組む積極性と問題関心を持つと心がけている学生であれば、誰でも参加を歓迎します。授業評価アンケートの学生の感想は、「自分の気になる分野を徹底して深められるので知識が身につく」、「発表に対する質問から、経済の話につながっていったので分かりやすかった」などです。

これまでのゼミ生の進路は、金融、保険、商社、メーカー、サービス、公務員など平均的な経済学部学生の就職先と変わりません。

ゼミコンは前期、後期各1回行っています。幹事を決めて居酒屋で行い、会話がはずんで盛り上がり、交流を深める良い機会です。タイ料理など東南アジアのエスニック料理を食べたいなどの希望があればアレンジします。

ゼミ合宿は、相談して決めたいと思います。本で調べたテーマに関して、実際に現場を見に行ったり、当事者から話をお伺いすることも、理解を深める上で大変重要です。学生の皆さんから、積極的なアイデアの提案を期待しています。主役は学生の皆さんですから、皆さんが自主的に、主体性をもって取り組むことは、積極的に応援します。

質問があればメール（higashis@seinan-gu.ac.jp）などで連絡をください。気軽に相談してください。

本 間 正 義 ゼミ



—— プロフィール ——

氏 名：本間正義

専 門：農業経済学、食料経済論、開発経済学

担当科目：国際経済政策

そ の 他：2017年4月に着任したので、今回が第1期生の募集となります

【演習のテーマ】

「食料と農業を科学する」

食料は生きていく上で欠かせません。その食料を作るのが農業ですね。でも、これだけ身近な存在である食料と農業について皆さんの知識はあまり多くありません。グルメ情報や田園観光地に詳しい人はたくさんいますが、また、食料や農業に一言を持つ人も少なくありません。食料や農業は多種多様であり、「群盲象をなでる」といった感が否めません。

そこで、本ゼミで食と農を徹底解剖してみませんか。とはいえここは経済学部。しかも履修するのは国際経済学科の皆さんですから、経済とグローバル化の視点で食と農を徹底研究してみることにししょう。

人類は、初めは狩猟採取で食料を調達し自給自足でした。皆が農民だったわけです。自分が食べる以上の食料を生産できるようになって、初めて他産業が成立することになります。農業は他産業に食料を供給するだけでなく、労働や資本を提供し、さらに他産業製品の市場を形成します。すなわち、農業での生産性向上がその国の経済発展の鍵となるのです。

一方、今日の世界を見渡してみると、発展途上国には8億人もの飢餓（栄養不足）人口があり、また、先進国では飽食と肥満があふれています。途上国の農家は低い農産物価格に悩み、先進国では農業保護が蔓延しています。食と農を巡る環境は国や経済発展の段階によって大きく異なるのです。

そんなことを学びながら、今日の食卓を眺めてみましょう。ご飯は国産だとしても、牛肉は国産？米国産？豪州産？みそ汁の味噌は？ねぎは？デザートのカークの材料は？日本の食料自給率は今38%ですが、これは高い？低い？食卓から食と農への関心はたちまち広がります。私たちの食卓は世界各地とつながっており、また、国際経済の影響を受けながら皆さんの胃袋を満たしているのです。

本ゼミでは、食と農に関心を持つ学生を歓迎します。どんな切り口、関心の持ち方でも食と農を深掘りしてみたい方はどうぞ参加して下さい。グルメもラーメン大好きも、イタリア飯、フレンチ、和食に関心がある方も、日本の食料自給率が気になる方も、世界の食料問題に取り組みたい方も、一

緒に食料と農業を科学してみませんか。

【演習の進め方】

前半は、教員が指定する論文や報告書等の文献を、担当を決めて学生が報告する。当然事前にゼミ生全員が読んでおくので、ゼミでは報告者に対して全員が質問やコメントを用意しておくこと。全員参加型のゼミであり、沈黙は「金」ではなく「罪」であると心得ておくこと。

後半は、学生自身が関心のある論文やレポート、新聞記事などの文献を探してそれを交代で報告し、全員で議論する。報告担当者は、単に内容を紹介するのではなく、その背景やその文献の持つ意味についても報告する。そのためには内容にかかわる他の文献にも目を通しておかねばならない。

いずれの場合も、報告者はレジメないしスライドを用意し、プレゼンテーション形式で報告を行う。また、普段から食と農だけでなく、経済問題に関する新聞記事やテレビ等での特集番組などを注意してみるようにすること。毎回、新聞やニュースで話題になった経済の出来事について触れ、学生に意見やコメントを述べてもらう。

【テキスト】

テキストは用いず、ゼミ開始時に学生が報告する文献リストを配布する。参考書もその都度紹介する。また、食と農の範囲は広いので、学生の関心に応じて著書や論文を紹介する。場合によっては、専門家を紹介するので、直接コンタクトを取ってメール等で質問することを勧める。

【評価方法】

報告内容（レジメとプレゼンテーション、質疑の受け答え等）、ゼミでの積極性（発言の回数と内容等）、各種イベントへの取り組み姿勢等を総合的に判断する。

【選考方法】

国際経済学科の学生のみが応募可能であり、提出された書類を見て総合的に判断します。「志望理由」は重要ですので、しっかり書き込んで下さい。



—— プロフィール ——

担当科目：国際経済開発論

演習のテーマ：経済発展、所得分配、貧困問題、ジェンダー問題、移住、送金

出身地：東京都

自己紹介にかえて：

私は開発経済学を専門としており、近年は、インドを対象として、経済成長が人口移動を通じてどのように所得分配に変化を与えるか、というテーマに基づく研究を行っています。

現在のインドのような国々では、今だかつて体験したことのない経済成長の中で、膨大な中間層が成長しながら、急速に都市化が進展しています。しかしその一方で、世界の3分の1を占めるともいわれる「絶対的」貧困層を一国内に抱えたままであることも事実です。急速な経済成長によって、多くの人々に新たな経済的機会と社会的機会が開かれたことで、多くの人々は豊かになって



ニューデリー駅前

てきました。メイドがいる家も一般的なので、日本人よりも豊かな生活をしている人々は大変多いといってもよいでしょう。一方で、「今までなかったチャンス」が、多くの社会的後進階層とみられる人たち（インドには、社会的な差別が多く存在していて、苛烈な差別を受ける社会集団があり、その中でも特に経済的に弱い集団は差別とさまざまな暴力を受ける対象となることが多いです。そのもっとも弱い集団とは、女性であることがほとんどです）にとっても、一定程度はもたらされることは確かでもあります。その恩恵は中間層以上が受ける恩恵ほど大きくはありません。

また、経済的な価値が増大するにつれて、文化や慣習や制度の変容が同時に起こります。つまり、西洋的、あるいは、グローバルに受容されている文化が、金銭的な価値という大きな裏付けを得ることで、通常は、伝統的な価値を駆逐すると考えられます。たとえば、現在のニューデリーやムンバイでは、（今までは社会的に許されなかった）アルコールやディスコを楽しむはじめた中間層の女性も珍しくなくなり、一般的に彼女らは高い学歴を持っているため、伝統的な価値観はすたれていくようにも思えます。しかし、同時に、一見時代遅れに思えるような文化や慣習の力が強まることもありえるのです。実際、中間層では逆に伝統的・宗教的な価値を見直す「保守化」が起きていて、中間層の女性の場合には、大学を出ることは職業と直結せず、むしろ良い結婚相手を見つけるための手段としてのみ機能しているケースがよくみられます。（いわゆる「釣書」のようなものです）経済学をすこしでも勉強していればわかることですが、結婚は愛によってするものではありません。今までの自分の社会・経済的バックグラウンドを守り、なおかつ今後の人生を安定させるために必要な社会制度が結婚です。もし自分の経済的バックグラウンドを守る必要がないと考えれば結婚は必ずしも必要ではないし（先進国はこうなっています）、逆に安定させる必要があると

考えれば絶対必要となってきます。経済成長期に自分の家柄や教育から大きな利益を得た女性たちの家庭は、その利益をより強固なものにする必要性を強く感じるため、結婚によってさらなる経済・社会基盤の安定化をはかるよう必死になります。したがって、インドのような社会では婚活は、社会・経済的基盤を「保守」するために最も重要な手段ですから、私たちが想像できないほどに苛烈です。お見合い相手は全国紙で募集されていますし、海外留学経験のある女性限定や博士以上女性限定婚活パーティなど、とても日本では想像できない高い条件で絞ってもすさまじい数の募集者で溢れますし、加えて、何よりも家柄が釣り合うことが必須条件ですので、婚活はきわめて厳しい「戦い」になっています。そして、婚活の勝者たちは結婚によってより社会的・経済的な価値を固定化していくことになります。逆に、貧困層の家庭では、若年の女性、ひどいときは小学生くらいの幼児が、ほぼ人身売買のような形で花嫁として売られていくこともいまだに珍しくありません（10歳くらいで「変態のおっさん」に5万円程度で売られてしまうのを考えるとどれだけおぞましいことか想像がつくでしょうか）。

学歴と能力と財力のある階層が結婚して経済的基盤を盤石にすると、だいたい海外で教育を受けたり仕事をするのがステイタスとなります。こうして、海外に出た人々と国内に取り残された人々との格差がさらに広がっていきます。

さらに、経済発展途上にある国では、経済成長に伴って、教育にかけねばならない家計コストは増大していく一方なので少子化が進みますが、社会保障が未発達であることがほとんどです。そもそもそのような国においては、子供は老後保障の一環をなす存在であるため、親は自分の老後のために多くの子供を持つとします。しかし、教育の重要性が周知されてゆき、教育による経済的利益がより大きなものになると、子供の教育コストが上昇します。つまり、教育が普及すると、より多くのお金がかかるので、子供をたくさん持つことができません。一方で、経済成長により、伝統的価値観が解体され、近代化された社会においては（日本を考えればわかると思いますが）子供は必ずしも親の面倒をみるわけではありませんから、子供が育った後には、子供に老後を保障してもらえない貧困な親世代が残るだけになることもありえます。老人世代の中でも貧困に陥りやすいのは、言うまでもなく経済的なバックグラウンドを持たない農村の高齢女性です。農村には膨大な数の高齢な貧困女性が存在します。さらに、仮に貧困でなかったとしても、むしろ多くの財産を所有していたとしても、女性は社会へのコミットメントが低いために公的な手段について無知であることが多いという問題があります。

さまざまな人々が、自由に、増大した経済的機会の恩恵を受けることを、「経済発展」と言います（GDPの増大によってはかられる「経済成長」とは区別されます）。しかし、はたして、こうした「新たな」機会を、ほんとうに多くの人が享受できたのか、という疑問は大きく残ります。つまり、経済成長によって、ある程度の恩恵はわたったものの、不平等化が進んだことで、かえって、もともと経済的に苦しい状態にある人が、相対的にさらに苦しくなってしまうのではないかと、いう問題です。仮に、そうしたことが起きた場合、つまり、少数の人々だけが得をして、大多数の人々がかえって苦境に陥ってしまう、つまり不平等が増大するような場合には、経済成長は経済発

展を伴わなかった、ということができます。

不平等が増大すると、犯罪の増加や不効率な経済資源利用など、さまざまな社会的な悪影響（社会的コストの増加）が生まれます。富裕層がより多くの富を独占する一方で、中間層が細りつつあり、格差が増え続けている（ちなみに日本でも子供の6人に一人が貧困状態にあります）ために、経済成長も伸び悩んでいます。すなわち、不平等が発展を阻害しているといえます。

したがって、経済発展という見地に立てば、文化、社会を包摂した、多面的な価値を考慮しながら、経済的な価値について評価を行う必要があります。開発経済学の研究においては、経済成長と経済発展との関係性を評価し、より望ましい経済発展を志向するために、さまざまな研究方法が試されてきました。こうした見地にもとづいて、特定の地域にこだわらず、格差・貧困と経済発展の関係性、そして経済的・社会的変化の中にある女性のありかたについて考えていきたいと思います。



バンガロール下町の自動車修理工



人を運ぶリキシャーとミニトラック

演習の進め方と教科書について：

開発経済学に関係する英文テキストの輪読と、学生各自のテーマや問題意識に沿った発表を行いたいと思います。各自の問題意識に基づいたサポートは行いますので、遠慮なく相談してください。

今年度の教科書は

『貧困の経済学』（2018）マーティン・ラヴァリオン著、日本評論社および

After Piketty: The Agenda for Economics and Inequality eds.by Boushey., Delong., and Steinbaum., Harvard University Press

Life and Words: Violence and the Descent into the Ordinary Veena Das, University of California Press;

を考えています。

評価方法：

出席状況、平常点、レポートによって評価します。

選抜方法：

今年度から国際経済専攻の人のみが選考の対象となります。書類選考および面接を行うので、募集期間中、必ず面接のアポをメールで取るようにしてください。m-kato@seinan-gu.ac.jp

その他： 質問はメールでお願いします。



—— プロフィール ——

河村 朗（かわむら あきら）

専門分野：エネルギー・資源問題、中東経済、

担当科目：資源経済論、中東経済論など

趣 味：将棋、野球観戦、映画鑑賞、海外旅行、読書など

自己紹介：

京都市内で生まれ、約30年間古都に住んでいました。大学受験の年がちょうど第2次石油危機の直後で、中東が注目されていた時期にあたります。大学では英語以外の外国語を勉強したいと思っていたのですが、ちょうどこのような時期が大学受験と重なったことが、学部でアラビア語を専攻する契機となりました。その後大学院において中東経済を研究し、博士後期課程ではエジプトに留学しました。その後、短大、私立大学での勤務を経て2009年4月に西南学院大学経済学部に着任しました。

1. 演習内容**(1) テーマ**

2018年度のゼミのテーマは石油、天然ガス、石炭、原子力、再生可能エネルギーのようなエネルギー資源の問題です。ゼミの受講生は、エネルギー問題に関する英語や日本で書かれた基礎的な文献を輪読し、報告をします。その際、雑誌、新聞、インターネットなどで収集した情報を用いながら、エネルギー動向の過去や現在について理解を深めるとともに、経済学の基礎理論や統計を用いて実際の経済を分析する能力を身に付けます。

最近10年程度の世界におけるエネルギー動向のうち、注目すべき動向として以下の4点が挙げられます。第一に、2011年の福島での原発事故です。この事故以降、エネルギーとしての原子力の位置づけが世界各国で変化しています。脱原発を目指している国もあれば、他方で原発推進をしようとしている国もあります。第二に、アメリカの「シェール革命」です。シェールガス・オイルの生産量がアメリカ国内で増大してきた一方で、「シェール革命」は世界のエネルギー動向に影響を与えています。第三に、「アラブの春」以降の中東・北アフリカ地域におけるエネルギー動向、特にペルシャ湾岸諸国での動向です。湾岸地域は世界有数の石油・天然ガスの埋蔵地域であり、この地域におけるそれら化石燃料の需給動向は、世界のエネルギー問題を分析する際に不可欠です。第四に、原油価格の下落です。かつて1バレル100ドルを超えていた原油価格は、2014年後半以降に低下し、最近では1バレル50ドル程度で推移しています。このような原油価格の下落は、産油国、先進国などの世界のエネルギー経済に大きな影響を与えています。

(2) 演習の進め方

毎週英語・日本語の資料を輪読し、またインターネットなどで収集した情報も活用しながら報告、質問作成を担当します。その際に、3～4人程度のグループを形成し、その各々のメンバーが作業を分担しながらグループごとに報告を行います。また、同時に質問グループは報告内容に関する質問をします。質問に対する回答は、報告の次の回の最初に報告グループが行います。報告・質疑応答の後に、全体で議論をします。

(3) テキスト

テキストは特に使用しません。資料は前もって配布する予定です。

(4) 評価方法

出席状況、報告、レポートなどを総合的に判断して成績評価を行います。それらの比率については、シラバスで記載する予定です。

2. 学生への要望

エネルギー問題に関心がある学生を望みます。既に前期で中東経済論を単位取得した学生や、後期に資源経済論を受講している学生だけでなく、その他の学生でも関心があれば歓迎します。希望者は、ゼミの申込書の志望理由の箇所に、エネルギー問題のなかで最も関心を持っているテーマとその背景を具体的に説明してください。

3. その他

- ・このゼミは国際経済学科の学生を対象にしています。
- ・質問があれば、kawamura@seinan-gu.ac.jp までメールを送ってください。
- ・卒業論文：過去のゼミ生の卒業論文のタイトルを抜粋して以下に記載します。なお、演習Ⅱと卒業論文は同時履修が原則です。

「石油の時代と今後の展望」

「世界各国のエネルギー消費動向に対する一考察」

「日本におけるエネルギーの現状と今後の展望」

「福島第一原子力発電所事故による各国への影響」

「今後の中東のエネルギー資源について」

「世界における原子力発電の現状と今後の展望」

「世界における再生可能エネルギー動向の現状と今後の展望ー日本を中心としてー」

「再生可能エネルギーが環境に与える影響について」

「原油価格の変動が経済に与える影響について」

「シェール革命とその後のエネルギー情勢ーアメリカを中心としてー」

・課外活動と写真：

年に数回コンパ、ゼミ旅行、社会見学などを行う予定です。以下の1枚目、2枚目の写真はそれぞれ、これまでに行った「西部ガス」の工場（福岡市東区）、海水淡水化設備の「まみずピア」（福岡市東区）の見学時の写真です。



西部ガスの工場にて



まみずピアにて

三宅伸治ゼミ



—— プロフィール ——

1970年岡山県生まれ。テニス、ジョギング、水泳、ビール（発泡酒）が好きです。

[注意] 国際経済学科に所属される方のみが受講可能です。

[テーマ] 基礎的な国際経済学の経済モデルの理解＋時事問題のディスカッション

[内容]

演習Ⅰでは、国際経済学の基礎的な経済モデルの解説、および、国際経済と関係する時事問題のディスカッションを中心に進めます。経済モデルの解説は講義形式です。講義形式といっても、大講義室の授業と異なり、参加者に質問するなどし、双方向で授業を進めます。標準的な教科書を全てカバーすることは難しいので、参加者と相談しながらトピックを選択します。解説する範囲は限定されますが、選択した経済モデルについては、現実の経済問題に各自が応用できる程度まで理解できるようになることを目標にします。

時事問題のディスカッションでは、毎回国際経済と関連する一つの話題について全員で議論します。事前に議論の進行役（当番制）が話すテーマを決め、各自で調べ、ゼミで議論します。必要に応じて新聞や雑誌の記事のコピーなどを配布します。議論をしていくうちに、誤解や勘違いが見つかる、新たな視点や考え方に触れるなど、一人で文献を読んだだけでは得られないことを学べます。もちろん、議論の仕方自体の勉強にもなります。参加者は積極的に発言することを期待されます。

- (1) 「議論を通じて理解を深める」をモットーに進めます。頻繁に発言が求められるので座って聞いていただけない人には向きません。
- (2) 時々、統計学の基本事項を解説し、パソコンを使用した実習も行います。パソコンの使用について特に難しい知識は必要ありません。Wordで文章を作成し、フォルダやUSBメモリに保存できれば十分です。パソコンの取り扱いに不安のある人は事前に相談してください。
- (3) 公務員試験等のために、経済理論を勉強したい人には別途対応します。相談してください。

[テキスト・参考書]

[国際経済学]

教科書は後日指定します。興味のある分野、使用したい教科書があればメールで相談してください。

[時事問題]

教科書は使用しません。必要に応じて、新聞や雑誌などの記事のコピーを配布します。

[成績・評価]

出席、授業への参加態度などを総合的に評価します。ミニテストを実施するかもしれません。

[ゼミ生の選考基準]

ゼミ中に活発に議論に参加してくれるかどうかを重要視します。発言内容が間違えていても、的外れなことを言っても気にしないで、積極的に取り組んでくれることを期待しています。ゼミを楽しくしようと思っている人の応募をお待ちしています。なお、マクロ経済学Ⅱ、経済政策Ⅰの成績は良くなくても全く構いませんが、これらの科目を履修していない人は3年次に履修してください。

[その他]

* ゼミの懇親会や旅行は参加者の自主性にまかせています。ゼミ生が企画したものは参加しますので是非提案してください。過去には、福岡市博物館見学、河川敷や百道浜でバーベキュー、能古島遠足、壱岐島旅行などがありました。一方で、飲み会だけの年もありました。全員大人しく一年間お通夜のような年もありました……。楽しい企画で親睦を深めたいと思っていますので是非提案してください。九州国立博物館の見学や工場見学とかどうでしょう。

* ゼミについての質問は随時受け付けています。遠慮無くメールしてください。(2017年12月下旬まで大学にはいませんのでメールで連絡してください。)

smiyake@seinan-gu.ac.jp <— [miyake](#) の前に s がつきます。



—— プロフィール ——

テーマ：人工知能時代の社会経済と不均衡の併存

2018年度のゼミナールでは時代の大きな特徴を一見性格の違う2つのテーマに即して考えていくことにしました。それは人工知能が人間の労働というこれまでの経済の根幹を支えた要素をどう置き換えるのかというテーマを過剰と不足という相反する現象の中で一体的にとらえようとする試みに挑むことです。

この時期の一つの顕著な変化は、AIの急速な変化がわれわれ人間の働き方や生活の仕方に大きな変化をもたらしていることです。それは同時に社会の仕組みや産業の在り方に想像もできない変化をもたらすはずで、急速に開発が進む全自動運転自動車はその一つの典型でしょう。それが実現すれば、道路の仕組みや交通法規が大きく変わるだけでなく、車にかかわる職業分布にも大きな変化が生じます。車だけではなく、これまで人間が行ってきた仕事が人工知能によって広い範囲で置き換えられ、他方ではそうしたことによって生じる変化に対応する新しい職業が生まれてくるはずで、

この時代をとりあえず「人工知能への時代」と名付けると、それがよく言われるグローバリズムの進行そしてインターネットの普及と同時に進んでいることが現在の特徴です。その例として、急速な経済成長を続ける中国を例にあげましょう。私が初めて中国の地を踏んだのは1980年でした。1980年の中国の街は自転車の洪水でした。家庭には、白黒テレビすら普及していなく、洗濯機も冷蔵庫も普及していませんでした。「三種の神器」は自転車、ミシン、腕時計でした。カラー写真も普及していなく、モノクロカメラは貴重品でした。30数年経った現在の中国は、一人当たりGDPは世界72位ですが、今や世界の自動車保有国であり、小さな子供までがスマートフォンを持つようになりました。都会のコンビニでの支払いの決算や地下鉄・バスの料金支払いには当たり前のようにスマホが使われています。その普及度は日本以上です。インターネット環境も急速に整備され、その変化に人々は対応しています。発展途上国が先進国に追いつこうと近代化を進めた場合、これまでは農業国から軽工業の発展を経て、徐々に産業構造の高度化を果たしていくというパターンが普通でした。今は、いきなり、最先端の技術や生産方式が先進国から流入して、それが新しい型の近代化をもたらしています。いきなり、人間の労働を代替できる技術が生産や流通の分野に導入されると、それは雇用の相対的減少をもたらし、過剰な労働力を生み出してしまいます。それは雇用の分野に大きな克服すべき課題をもたらします。同時に、先進国でも人工知能の普及は急速に社会を変えています。こうした変化が社会の雇用や構造に及ぼす変化をこのゼミでは観察していきます。

もう一つ現代において私たちが注目しなければならないのは、「不足と過剰」が同時に存在し、アンバランスな経済の動きが世界各地で起きたことです。政治経済的に「不安定」な時代が来ています。「不足」を代表するのが、わが国を含む財政の赤字です。ヨーロッパでも財政赤字に苦しむギリシャやイタリアなどの「財政危機」が「金融危機」をも巻き込んでヨーロッパ連合 {EU} を揺さぶり続けました。イギリスのEU離脱は、世界中に衝撃を与えました。日本の財政赤字は年金問題への

不安を呼び起こしています。

サブプライムからリーマン＝ブラザーズ問題に端を発したニューヨーク発の世界同時金融危機は世界中の人を不安に巻き込みました。原油価格が乱高下したことによってわかるように、原油はさまざまな理由で過剰と不足を繰り返しています。過剰な資金が世界の人たちの福祉や生活の向上に用いられることなく、今なお投機的に動いている結果です。

本ゼミナールでは、このような動き、つまり過剰な資金がなぜ生まれ、様々な商品の値段をつり上げていったのか、また、株式や証券の値をつり上げていったのか、このことは資本主義経済の仕組みとどのようにかかわっているのか、を中心的なテーマに掲げます。それを理解していくうえで、アメリカの経済と日本の経済の関連を研究していきます。また、このごろの経済において目立ったのは中国やインドの高度成長でした。この二つの人口大国の成長が、一方で原油や食料の需要を増やしたために、その価格が上昇した、という側面も無視できない点ですが、これらの国の経済成長の特徴を把握することも現在の世界経済の絡み合いを見ていく上で重要なテーマとなります。中国はリーマンショック後の財政出動で多額の資金を市場に供出し、世界的な不況を下支えしましたが、今、その過剰な投資が鉄鋼の大量生産をもたらし、世界的な鉄鋼過剰の元凶となってしまいました。結論的なことを言えば、たとえば中国の場合、北京から広州につながる鉄道線（京広線）の東側に全中国の経済力の7割が集中していますが、ここに日本やアメリカの余った資金が集中し、安価な労働力を利用した“Made in China”の品物が世界に輸出されています。しかし、この京広線以東で実現した利益は、京広線を越えてその西側に展開する貧しい内陸部には向かわず、香港やアメリカ、日本等に向かっていきます。地域格差、都市と農村の格差は一向に縮められていないのです。

アメリカや日本などが牽引してきた世界経済に中国は部分的に巻き込まれているだけです。中国自身が一つの全国的な経済の体系を持つにはいたっていません。ですから、冒頭で述べたアメリカの金融危機が深刻化すれば、“Made in China”の品物もその行き場を失いかねず、中国経済はその成長を鈍化させられかねません（実際、中国の成長率はこの間の金融危機の影響を受けて下がり始めています）。こうしてみれば、私たちを取り巻く西太平洋から東アジアに展開する経済社会は、決して安定したものにはなりきっておらず、その不安定で動揺しかねない要素をこのゼミナールで学んでいくことにします。

また、こうした現在生じている世界の経済の問題を根本的に考えるためにアダム＝スミス以来の経済学の古典をも利用して、その時代時代に著名な経済学者が諸問題にどのように向い合って行ったかを参考にします。

テキストや参考図書は追って指示しますが、前半期は担当者が作成した資料解説を利用します。

毎週、その週の世界と日本経済の動向を新聞を通して把握します。

出席重視です。



— プロフィール —

(1) 専門分野

私の専門分野は、国際金融論および世界経済論です。専門科目の担当は国際金融論になっています。以下で国際金融論では、どのようなことを研究するのか、という点について、ごく簡単に説明しておきます。

今日では、金融機関の国際的活動や金融市場の国際的開放をつうじて、金融システムのグローバル化が急速に進んでいます。経済のグローバル化は、まずは金融の世界で展開されたのです。このようなグローバルな金融システムを捉えようとするのが国際金融論という

研究分野です。それは、国家間、企業間、並びに個人間の資金のやりとりや、それを支えている諸々の制度（国際通貨制度や外国為替制度）を研究の対象とします。その扱う分野は、歴史、理論、構造、の広い分野に及んでいます。また、国際金融の対象は、カネの動きだけでなく、モノの動きも見ないと十分に理解できません。私が、世界経済論も専門分野にしているのはそのためであります。

(2) 研究テーマ

私の研究テーマは、比較的多岐に渡っています。かつては、19世紀から今日までの国際通貨制度や国際資本移動、を主たる研究テーマとしていました。現在では、第1に、現代のヨーロッパ通貨統合との関連で、フランスの金融システムの歴史的変容を捉えること、第2に、現代の欧州の金融・経済危機の要因と影響を捉えながら、将来の欧州統合のあり方を考察することです。その際に、日本でほとんど紹介されていないフランスにおける研究状況を把握すること、を心がけています。

1. 演習内容

(1) テーマ

来年度も「欧州の金融・財政危機」というテーマを設定したいと思います。今日、ユーロ危機、さらには欧州（EU）危機という言葉が、新聞・雑誌・TVなどのマス・メディアの中で盛んに登場しています。EU 発金融恐慌という極端な表現も見られます。確かに、2009年以降、ギリシャの債務危機から出発した欧州の金融・財政危機は、グローバルな規模で大きな影響を与えています。果して、ユーロやEUは、このまま崩壊してしまうのか。また、その場合に、本当に世界で大恐慌が起きるのか。事態は、さながらサスペンス・ドラマのように展開されています。そこで私のゼミでは、そのような危機は、一体、どうして起こったのか、また、その実態はいかなるものか、さらに、そうした危機からいかに脱け出したらよいか、そして将来、欧州はどのような統合を進めたらよいか、などの様々な重要問題について、研究書や内外の新聞・雑誌をつうじて、皆で考えていきたいと思っています。その際に、とくにイギリスの経済新聞である Financial Times を読みながら、現地の様子と議論を把握するつもりです。

(2) 方法

基本的に、テキストを皆で輪読しながら議論する、という方法をとります。その際に、いくつかの少人数によるグループに分け、グループごとにテキストに関するレジュメを作り報告してもらいます。また、報告に対するコメントもグループにより行います。

(3) テキスト・参考文献

テキストとして次のものを予定しています。

尾上修悟 「Brexit と民衆の反逆」 明石書店、2018 年。

Financial Times

ただし、以上は予定であり変更することもあります。

参考文献として、とりあえず次のものを挙げておきます。

尾上修悟 「フランスと EU の金融ガヴァナンス」 ミネルヴァ書房、2012 年。

「欧州財政統合論」 ミネルヴァ書房、2014 年。

「ギリシャ危機と揺らぐ欧州民主主義」 明石書店、2017 年。

A. アルティ / 尾上修悟訳 「連帯金融の世界」 ミネルヴァ書房、2016 年。

田中素香 「ユーロ危機とギリシャ反乱」 岩波書店、2016 年。

星野 郁 「EU 経済・通貨統合とユーロ危機」 日本経済評論社、2015 年

その他適宜指示します。

(4) 評 価

報告、議論への参加度、レポート、等を総合的に判断して評価を行います。

(5) ゼミ生の選択基準

志望動機を書いてもらい、勉学意欲のある学生を選択します。特に定まった基準がある訳ではありません。

※ 国際経済学科の学生を対象とした演習です。

2. 学生への要望

- ・ 国際経済と国際金融に関連する科目を必ず受講すること。
- ・ 英語に関心をもち、かつまた、その能力を伸ばすこと。
- ・ 教養を身につけること。
- ・ つねに、明るく振舞うこと。

立 石 剛 ゼミ

担当科目：アメリカ経済論

〔1〕研究テーマ

立石ゼミナールでは、アメリカおよびアメリカのもとでの平和（パクス・アメリカーナ）の行方を経済的側面から深く考えることを目的とします。そのために、以下のテーマでアメリカ経済を探求したいと考えています。

1. 「アメリカ経済の成長と構造変化」

アメリカ経済は驚くべきスピードで変容しています。1980年代中頃は日本経済の興隆とアメリカ経済の衰退が指摘された時期でした。それから10年後の1990年代にはアメリカ経済での IT 革命と金融活況そして日本経済の長期不況のように状況が180度変化しました。そして2000年以降、アメリカ経済は金融危機など不安定な側面を見せましたが、それでも相対的には経済成長と変化を続けています。他方で、金融危機をきっかけにアメリカは日本のように長期停滞経済に突入したとの議論も見られます。この議論は、アメリカの金融財政政策を考える際に重要な分析視角を与えてくれます。

2. 「アメリカの経済格差とその政治経済的インパクト」

アメリカ経済の変化は経済格差の拡大という大きな問題を伴っています。アメリカの経済格差は伝統的に人種や民族の違いと密接に関連しています。アメリカでは格差はいわば移民社会の縮図のように思えます。こうした伝統的格差に加えて、近年は学歴や職種に基づいた同じ人種や民族内部での格差が拡大しています。なかでも、白人を中心とした豊かな中間層が「Haves」と「Have-nots」に分裂しつつあることが指摘されています。この新しい経済格差は、「保守共和党 対 リベラル民主党」という従来の政治構造に、「持つ者 対 持たざる者」という対立軸を加えることで、アメリカの政治構造に影響を与え始めています。

3. 「アメリカ経済のグローバル化の行方」

構造変化が進む中でアメリカ経済は対外資本流入への依存を深め、その持続可能性が問われています。他方、アメリカ企業は対外生産依存を拡大させており、収益の多くを海外に依存しています。労働力に関しても移民国家アメリカでは海外からの労働力流入が大きな役割を果たしており、マイノリティが労働力の過半を占めるのも間近だと言われています。このアメリカ経済のグローバル化に対して、アメリカ国民の多くがその恩恵を受けていないと感じているようです。2016年大統領選に見るトランプ支持層およびサンダース支持層が TPP や移民に批判的立場を取ったことが良く知られます。アメリカの国際経済関係は転換点を迎えつつあるのかもしれません。

〔2〕演習の進め方

演習 I では、アメリカ経済に関する基本的知識の獲得と、経済学の分析ツールを使った現状把握を目的とします。そのためにアメリカ経済に関する多くの文献輪読を行います。具体的には授業前にあらかじめテキストの熟読を行ってもらい、そのうえで、授業では知識の確認やディスカッションを中心に進めます。アメリカ経済に関する研究ですので、英語文献も利用します。出席、ディスカッショ

ンへの参加、予習の度合い、そして期末レポートで成績評価します。

演習Ⅱでは卒業研究を念頭に置いて、多くの文献を読みこなし、（そしてそれらを就活のネタにすることを踏まえて）レポートを作成してもらいます、そのうえで、12月末を目途にして卒業論文を提出してもらいます。テキスト・参考文献などは、卒業論文の執筆を念頭において、皆さんと相談のうえで決定したいと思います。演習Ⅱは出席やレポートで、卒業論文は提出された卒業論文で判断して評価します。ちなみに立石ゼミでは、よほどの事情がない限り、卒業論文を提出することになっています。遅刻、無断欠席、レポートなど提出期限を守れない場合、単位が認められないことがあります。その辺のルールは初回のゼミで伝えます。この他、ゼミの活動として、アメリカンセンターで開催される講演会などにも参加する予定です。

〔3〕ゼミ生の選考基準

大学で修める学問は即効的に社会に役立つものではありません。大学とは通常では見過ごされがちな問題に好奇心を抱き、その探究を行い、真理を発見するという非常に高度な知的作業を行うところです。それは社会に出た後では決してする事の出来ない非常に豊かな知的活動です。（ちなみに卒業生の多くはなぜ大学時代にもっと学問をしておかなかったのだろうと後悔する人が多くいます。）当ゼミナールでは基本的に知的関心が高く、自らその疑問を解決しようとする積極的な学生を歓迎します。もちろんそうでなくても大丈夫です。一緒に学問しましょう。

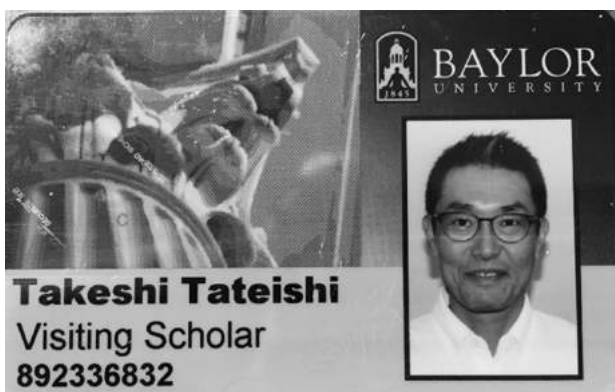
私が想定している人数以上の応募があれば、提出書類などにて選考します。その際、アメリカに関する基礎知識が豊富な人や英語文献にアレルギーがない人は歓迎しますので、応募用紙で具体的にアピールしてください（例えば、自主的に読んだことのあるアメリカに関する文献名やその感想、英語検定試験の成績など）。

なお立石ゼミには国際経済学科生のみ応募することができます。

何か質問などがあればメールにて受け付けます。返事は多少時間がかかりますが気軽に質問して下さい。

メールアドレス：tatetake@seinan-gu.ac.jp

『大学は、生計を得るためのある特定の手段に人々を適応させるのに必要な知識を教えることを目的とはしていないのです。大学の目的は、熟練した法律家、医師、または技術者を養成することではなく、有能で教養ある人間を育成することにあります。』 J.S. ミル『大学教育について』（岩波文庫）



2015～16年の間、アメリカテキサス州のベイラー大学に交換教授として派遣されていました。アメリカの南部は初めて訪れたのですが、良い意味で期待を大きく裏切ってくれました。テキサス州はアメリカ第二の経済規模を誇り、今後の成長が見込まれています。ゼミでは、日本人にはあまりなじみのない南部での体験を出来るだけ伝えていきたいと考えています。

—— プロフィール ——

うえがきあきら 1950年大阪生まれ



東欧随一の美都プラハ。1995年にこの町の民宿（中世に建てられた商人の館）に私が泊まったとき、朝飯付で2800円しかしなかった。



東西ベルリンを分けていた「ベルリンの壁」は一部保存されている。

演習テーマ：各国経済の比較システム論的考察（国際経済学科生のみが受講可能です）

演習テーマおよび演習運営法等の解説：

私の演習は国際経済学科生を対象とします。私は、講義では、「比較経済体制論」を担当し、ロシア・東欧の市場経済への移行に関して理論的・実証的に話していますが、演習では、さらに視野を広げてアジア・アフリカの発展途上国やアメリカ・ヨーロッパの先進諸国も含めた世界各国の経済の実態を、「システムの比較」という観点を重視しつつ、研究しています。ここで「システムの比較」とは、経済学の教科書に載っているような純経済的な側面だけでなく、歴史・文化・社会慣

習等を考慮に入れた広い意味での「社会システム」が、例えばアメリカ・日本・中国でどう異なるかを調べた上で、それが現実の経済的成果にどう繋がっているかを考察することです。その場合、私が学生諸君に特に求めたいのは、ブルガリアやアイスランドといった未知の世界に対して、「自分の将来には無関係である」とか、「何の関心もない」とか言って切り捨ててしまうのではなく、「何か面白そうだぞ、ちょっと調べてみよう」という好奇心をもってアプローチしてほしいということです。そうすれば、各国のごみ処理法とか老齢年金の算出法とかいった具体的で身近な問題も、その国の歴史・文化・社会慣習に深く根ざしていることに気づくでしょう。

演習は、基本的には、学生が調べてきたことを報告し、それに関して皆で議論するという形で進められますが、毎時間2部構成になっています。第1部は、レポーターが過去1週間分の新聞記事の切抜きをしてきて、そのコピーを皆に配り、1週間の世界情勢の動きについて報告するというものです。第2部は、各学生がそれぞれ1国を選んでその国について報告するというやり方で進みます。4年の最後には「卒業論文」あるいはそれに代わるものを提出してもらっていますが、毎年必ず1～2本すばらしい論文が私のもとに届けられるので、驚いています。たとえば、韓国・インドネシア・パキスタンの教育制度を比較して、それら諸国の経済成長と人材育成との関係を論じた論文やポーランドと日本の社会保障制度を比較した論文、日本の中小企業金融の現状と課題について論じた論文などがそれです。「卒業論文」に関しては、その作成過程で2～3度は中間報告をしてもらいますので、このようないい論文を書く人の報告は演習の仲間のいい刺激になっています。「僕も、私も、がんばらなくっちゃ」という気持ちが起きるようです。

学生の卒業後の進路ですが、これは他の先生の演習学生とそれほど違うとは思えません。銀行、証券会社、コンピュータ関連会社、旅行社へ就職した学生、そのほか、公務員、ジャーナリスト（新聞社、テレビ局、FMラジオ局）やスチュワーデスになった学生、それに他大学の大学院に進学した学生がいます。私は、卒業生が社会のできるだけ多様な場所で活躍してくれることを望んでいます。活躍の場所がさらに世界に広がればとてもうれしい気持ちです。

教科書、参考図書：上に書いたように、特定のテキストを皆で読んでいくという形式はとりませんが、順次参考文献を指示します。やはり、本をたくさん読む人になってほしいと思います。

成績評価方法：出席、レポートの内容、ゼミでの発言を総合的に判断する。

選抜方式：住んでみたい国を一つ挙げ、その理由を綿密に考察したレポート（600字程度）を書いて（演習I志望理由書〔第1志望用〕の裏に書くか、別のA4の紙に書いて、ホッチキスで添付してください）、規定の期日までに提出してもらいます。その内容を他の条件とともに総合的に判断して選抜します。

質問があれば、メールでどうぞ。uegaki@seinan-gu.ac.jp



—— プロフィール ——

尹 春志（ゆん ちゅんじ）

1967年兵庫県尼崎市生まれ

1. 自己紹介：

学部の講義では「世界経済論」を担当しています。

世界経済と言っても範囲も広く、それを分析する立場も様々ですが、個別の国ではなく、世界を一体のものとして（構造的に）把握し、そうした構造が生み出される要因について考えています。これまでは日本やアメリカという世界経済の中心と、かつては周辺に位置づけられていた東アジアの経済構造の関係を貿易や投資、産業構造、通貨・金融など多面的に検討してきました。現在は、対象地域をヨーロッパに移し、2017年9月からドイツのブレーメン大学で在外研究を行い、深刻な危機に直面しているEUのどこに問題があるのかを分析しています。

2. 演習の内容：

(1) テーマ

J. M. ケインズは、その主著『雇用、利子および貨幣の一般理論』の末尾で、次のように述べています。

「…経済学者や政治哲学者の思想は、それらが正しい場合も誤っている場合も、通常考えられている以上に強力である…誰の知的影響も受けていないと信じている実務家さえ、誰かしら過去の経済学者の奴隷であるのが通例である」。

2018年度も、こうした立場から、不均衡や格差をもたらす現代世界経済の構造と変化について各地域（アメリカ、欧州、アジア）の動向にも注視しつつ分析したいと考えています。特定のテーマを深く勉強していくのに必要なものは、知識の量ではなく、そのテーマにどれだけの関心と問題意識をもてるか、そして限られた知識でもそれを使ってどれだけ思考できるか、という点にあると考えています。演習Ⅰでは、まず相互に関連する諸問題をできるだけ幅広く取り上げ、問題意識を涵養したいと思います。特定の問題をもっと掘り下げるとことは演習Ⅱの課題にし、最終的には世界経済・国際経済の分野での卒業論文の作成につなげたいと思っています。なお、この演習は国際経済学科の学生を対象としています。

(2) 進め方

2018年度は、後期集中（週2回）で行います。

前半は、ゼミ参加者の基礎知識を確認し共通認識を作るために、基本的で標準的なテキストを輪読します。後半は世界経済の現状分析のためのグループ課題を設定し、より専門的なテキストを輪読しつつ、できればゼミ論文作成にとりくみます。

参考までに過去に取り上げたテキストは次の通りです。

テキスト：西川潤『新・世界経済入門』岩波新書。

ピーター・テミン、ディヴィッド・ヴァインズ『学び直しケインズ経済学』一灯社。

ハジュン・チャン『ケンブリッジ式経済学ユーズガイド：経済学の95%はただの常識にすぎない』東洋経済新報社。ほか

前半・後半を通じて、報告者は必ずレジュメを準備し、それにもとづいて報告を行い、全体で質疑・応答・討論という形で行います。司会もゼミ参加者に順番に担当してもらいます。テキストを輪読する場合には、報告者には、単に内容を整理して要約するだけでなく、疑問点や議論したい内容の提示も求めます。

(3) テキスト・参考文献

共通の輪読テキストはまだ決めていませんが、参考文献として次の文献を挙げておきます。

- ① ダニ・ロドリック『グローバリゼーション・パラドクス』白水社。
- ② 服部茂幸『新自由主義の帰結』岩波新書。
- ③ 同上『偽りの経済政策』岩波新書。
- ④ ハジュン・チャン『世界経済を破綻させる23の嘘』徳間書店。
- ⑤ 伊東光晴著『現代に生きるケインズ』岩波新書。
- ⑥ ロバート・スキデルスキー著『なにがケインズを復活させたのか』日本経済新聞社。
- ⑦ P. デヴィッドソン著『ケインズ・ソリューション』日本経済評論社。
- ⑧ K. ポラニー著『大転換』東洋経済新報社。

など

(4) 評価

出席・報告・議論への参加度などで総合的に判断して評価します。

3. 選抜方法

志望理由と勉強したい内容を中心に判断します。

4. 学生への要望：

後期集中で、比較的短期間に多くの文献を読みたいと思っていますので、熱意のある学生が志望してくれることを期待します。

2018(平成30)年度 経済学部 演習Ⅰ申込書

下記の欄に必要事項を記入して教務課
に提出してください。

『記入事項』

- (1)学科・在学番号・氏名（上下2箇所）
- (2)単位修得科目を専攻科目、関連科目、共通科目別に指定欄に記入（教職科目は記入しない）し、取得単位数も記入すること
- (3)英語は修得単位を記入のこと
- (4)不合格となった科目名を指定欄に記入のこと（E評価の科目も書くこと）
- (5)現在履修中の科目名を指定欄に記入のこと

経済学部	()	学科
在学番号		
フリガナ 氏 名		

[illegible]

総修得単位数	単位
--------	----

不 合 格 科 目					
専 攻 科 目			関連科目	共 通 科 目	
					英語（ ）単位

現在履修中の科目					
専攻科目			関連科目	共通科目	
					英語（ ）単位

経済学部（ ）学科
在学番号
フリガナ 氏 名

担当教員印

※自学科の学生が確認して下さい

2018(平成30)年度 演習Ⅰ志望理由(第1志望用)

提出日 2017年11月 日

在学番号

氏名

「演習 I」希望担当教員名

※自分が所属する学科の演習か確認して下さい。 ☒ (チェック欄)

(☒ に✓を入れて下さい。)

自己紹介

入学してから特に勉強したこと

.....

.....

.....

.....

志望理由

[illegible]

2018(平成30)年度 演習Ⅰ志望理由(第1志望・変更用)

提出日 2017年11月 日

在学番号

氏名 _____

「演習Ⅰ」希望担当教員名

※自分が所属する学科の演習か確認して下さい。 ☒ (チェック欄)

(☒ に✓を入れて下さい。)

自己紹介

入学してから特に勉強したこと

志望理由

[illegible]

2018(平成30)年度 演習Ⅰ志望理由(第2志望用)

提出日 2017年 月 日

在学番号

氏名 _____

「演習Ⅰ」希望担当教員名

※自分が所属する学科の演習か確認して下さい。 ☒ (チェック欄)

(☒ に✓を入れて下さい。)

自己紹介

入学してから特に勉強したこと

.....

.....

.....

.....

志望理由

[illegible]

**The highest reward for a person's toil is not what
they get for it, but what they become by it.**

John Ruskin

